

お餅で地域をひとまとめ！地域戦隊もちレンジャー事業

取組に至る背景・事業の目的

- ・ 少子高齢化や人口流出による若者の減少により、地域社会の活力の低下が社会問題となっている。
- ・ この事業は、もちをテーマにまちおこしを行い、様々な人が集う機会をつくることで、地域の活性化を目指す取組である。
- ・ 更には、地元産もち米を使った特産品を開発するなど、箕輪町を“もちのまちみのわ”として売り出し、地域の外にも魅力を発信する取組みである。

事業内容

- ・ 継続性のある活動環境とするため、杵・臼・コスチューム・調理器具等の購入など活動環境を整備した。
- ・ 普及拡大のための餅レシピを3品開発した。
- ・ イラスト・ロゴマーク・テーマソングは、活動に賛同した地域の有志が無償で作成した。
- ・ 支援金活用後も、地域の新たなイベントとして定着を図るため継続して事業を実施した。

平成 28 年参加行事 8 件
平成 29 年参加行事 9 件（町外 2 件含む）



【町内企業の依頼を受けて参加したイベント】

事業効果

- ・ 地域戦隊もちレンジャーの活動を通じ、地域社会を支える活力を生み出し、人の輪の拡大を図る活動を実施し、昨今少なくなった地域の交流を促進するとともに、活動メンバーの増加に繋がる取組みとなった。
- ・ 餅を使用した特産品の開発により、町内企業の1社が商品化に協力し、箕輪町の新たな魅力につながる取組みとなった。
- ・ 各種イベントの実施により、もちレンジャーの認知度を高め、箕輪町の新たな魅力発見に寄与した。
- ・ オリジナル法被やのぼり旗により知名度が向上し、町外からの依頼も入るようになり、活動の範囲が広がった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

支援金により整備した活動環境を活用し、活動を継続させるとともに、メンバーや協力者等関係者を増やして、「もちレンジャー」を軸とした地域を盛り上げる仲間の交流促進を図るとともに、開発したイラスト等を活用して「もちレンジャー」の認知度を高め、様々な事業や活動とのタイアップを図る。

【選定のポイント】

地域の活力を創出するために、どの世代にも受け入れられやすい餅つきと戦隊ヒーローを掛け合わせることで、観光資源の魅力発信や地域の活性化に寄与した。

団体名	地域戦隊もちレンジャー(箕輪町)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	総帥 大内学	事業費	633,860円
メールアドレス	mochiranger5@gmail.com	支援金額	449,000円

福島ハッピー大作戦 2016～灯花里の祭典～事業

取組に至る背景・事業の目的

福島区の過疎化、高齢化が急速に進み、地域コミュニティの機能低下が懸念されていたなか、豊丘村、福島区民、福島区本村前田の棚田オーナーが、協働で「福島てっぺん公園」を核とした地域づくりに取り組んだ。年間を通して各種イベントを行い、田舎ならではの農村風景や、福島てっぺん公園からの眺望を楽しんでもらい、リピーターの増加と荒廃農地の解消を図った。

事業内容

1 【福島の春】花木のあかり

全国植樹祭を応援するイベントとして、南信州地域振興局 林務課と協働で植樹祭を行った。講師を招き、イロハモミジ、桜、ツツジ、県のシンボルである白樺やリンドウなどを福島区民、ボランティアで植樹した。

2 【福島の夏】竹灯籠のあかり

本村前田棚田、福島春日神社、福島てっぺん公園、道路へ竹灯籠を飾り、点灯した。

3 【福島の秋】稲穂のあかり

本村前田棚田の稲刈りを棚田オーナーと行い、収穫祭（交流会）を行った。

4 【福島の冬】イルミネーションのあかり

イルミネーションを飾り、点灯した。また、保育園児や子育て支援イベントでツリーを作ってもらい、イベント会場に飾った。

5 【福島の魅力再発見】フォトコンテスト

村内外の方々に1年を通してイベントや日常の農村風景を撮影してもらい、フォトコンテストを行った。優秀作品出展者には、棚田で収穫した酒米でつくった日本酒「牡丹獅子」を贈呈した。

事業効果

- ・福島地域の観光客の入込数の増加
H27:100人 H28:3,100人
- ・四季折々の花木を植えて、観光地として景観整備が出来た。
- ・全国植樹祭や県の施策である「南信州竹取再生物語」と連携した取り組みが出来た。
- ・村内外から大きな反響があったことから、地域への愛着が深まり、誇りに繋がった。



【福島の夏 竹灯籠のあかり】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・引き続き観光客の増加、知名度向上を目指す。
- ・イベントで前田棚田をピックアップし、オーナー数、リピーターを増加させる。
- ・福島春日神社の春季祭典を福島てっぺん公園でも実施し、獅子舞の担い手確保や伝統芸能の継承に繋げていく。
- ・地域全体の景観・環境整備を継続していく。

【選定のポイント】

福島区民と村民ボランティアが協力し、観光客数を大きく増やした。春の植樹、夏の竹灯籠、秋の収穫祭、冬のイルミネーションと年間を通してイベントを行い、福島区の活性化に繋がった。

団体名	豊丘村	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0265-35-3311	事業費	1,914千円
		支援金額	1,473千円

ホタルの光でつなぐ地域ぐるみ川普請事業

取組に至る背景・事業の目的

塩尻市内の田川上流には、平成3年にホタルを愛する会がホタルの幼虫を放流したところ、上流から8km地点までホタルの生息が確認され、現在、「クリーン塩尻」推進連絡会議に加盟する団体が、田川の河床や護岸を中心とした自然環境の保全活動を行っている。

ホタルの光がつながった流域の長さや護岸への芝桜の植栽の長さ等を数値目標として掲げ、多くの市民や小中学生の参加も図りながら、自らの手で身近な場所の自然環境を保全し、自然から学べる場所づくりを継続するとともに、地域の交流を進めることを目指して事業展開する。

事業内容

○田川河川敷き及び護岸整備活動

本来、河川管理者が行う内容も含まれるが、河川敷きの葦やアカシヤ、護岸に繁茂しやすいアレチウリ等の帰化植物の駆除を、河川周辺地域住民の外、「クリーン塩尻」パートナー制度に加入する団体により実施した。

また、整備に要する刈払機やチェーン・ソーなどの機器や護岸整備のための花苗等を購入し、整備を行った。

実施期間 平成28年4月1日～平成29年3月10日

区域・場所 田川河川流域



【 シバザクラ植栽の様子 】

事業効果

- ・河川敷のゴミ拾い L=2km (毎年、継続する)
- ・河川敷の外来生物(帰化植物)駆除作業 L=3km (毎年、継続する)
- ・河川敷のニセアカシア伐採 L=50m (毎年、継続する)
- ・護岸への芝桜等の植栽 L=30m→ L=200m
- ・ホタルの光が繋がった長さ L=8km→ L=10km

協働による河川の環境保全の機運を高め、行動していくことで、河川のホタルが上流から下流まで生息域を延ばし一筋の光となることと、芝桜でつなぐことを達成目標とすることにより、地域住民や市民団体及び事業者らが、居住し働く地域に貢献でき、地域に愛着を持つことが期待できた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

来年度以降も継続的に潤いのある河川敷を整備する。

【選定のポイント】

地域住民組織や地元高校生との協働事業として河川敷の美化保全活動を実施することで、参加者が地域への愛着を持つことに寄与できた。

団体名	水を守る会(塩尻市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	会長 小松 嘉由 0263-52-0280	事業費	406,404円
		支援金額	300,000円

池田の魅力発見、発信フリーペーパー「いけだいろ」事業

取組に至る背景・事業の目的

池田町に暮らす人々が、町のことや町で活動している人、様々なイベントのことを表面的にしか知らない現状や、もともと住んでいる人と移住してきた人との間に見えない壁があり、お互いがお互いのことを理解できていないこと、また町を良くしようと活動する団体が多くある一方で、それらに横のつながりが無く協働の町づくりができていないこと等を問題だと感じていた。

学生という立場から地元を活性化したいという思いで団体を設立し、平成 27 年 6 月から活動の一つとして池田町の魅力発見、発信フリーペーパー「いけだいろ」の発行を開始した。若者の視点で池田町の魅力を発見し発信することで、様々な世代や立場の人をつなぎ、池田町の活性化に寄与する。

事業内容

- 池田町と周辺市町村をフィールドに、フリーペーパー「いけだいろ」を作成し、平成 28 年 6 月、9 月、12 月、平成 29 年 3 月の 4 回発行を行った。
- 6 月発行の 6 号では、特集で山村地域を取り上げた。「限界集落か夢の郷か」というセンセーショナルな見出しで現実を掘り下げ、住民の本音を掲載した記事が話題を呼んだ。
- 7 号では「これからの農業」と銘打って 4 名の若手農業者に取材を実施。初の 1 ページ全面広告も掲載した。
- 8 号では寺の特集を展開。池田にある 3 つの寺にフォーカスし、寺の新たなあり方や考え方を広めた。
- 9 号では、池田町長、副町長への取材を実施。行政発行の媒体には載らないパーソナルな意見を引き出すことに成功した。



【池田町長への取材の様子】

事業効果

- 支援金を活用することで発行部数が 500 部から 1,500 部となり、設置先も町内 30 か所、町外は近隣市町村の図書館や飲食店、県外のフリーペーパー専門書店等 15 か所となり、以前より 10 か所以上増加した。県外からの問合せも増え、池田町の新たな魅力を町内外に発信することができた。
- 取材活動を通じて町内の若者交流団体とつながりができたほか、町外の各種団体ともつながりを深め、地域を超えてイベントなどを実施することができた。
- 活動の場が広がったことで、池田町魅力をより様々な視点から発信できるようになった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

平成 28 年度にスタートした広告制度や 9 号でスタートしたサポーター制度の充実を図る。

「コンテンツも金銭面も地域で生み出す」をテーマに、継続的に発行できる基盤を整え、来年か再来年には自主財源で運営できるよう努める。また、法人格の取得や取材エリアの拡張なども検討していく。

【選定のポイント】

山間地域で暮らす人々や町長・副町長に対する若者視点によるインタビューが記事に活かされ、読む人に新鮮な印象を与え、話題を呼んだ。配置先も町内外の 45 か所に増え、県外からの問合せも増えるなど池田町の情報発信のツールの一つとなっている。今後も池田町の魅力が発信されるだけでなく、地域住民が池田町の魅力に気付き、地元への愛着が深まることが期待できる。

また、地域の人々が取材や編集に参加するなど、地域住民を巻き込んだ新たな展開や、関わりのある他の地域団体の活性化も期待できる。

団体名	信州池田活性化プロジェクト 「Maple Tree」(池田町)	事業タイプ	ソフト事業
ホームページ	https://ikeda-mapletree.jimdo.com	事業費	465,122円
		支援金額	300,000円

長寿の里「佐久」プロジェクト 医福健食農連携事業

取組に至る背景・事業の目的

佐久地域は「健康長寿の里」として県内外に広く知られており、地域の行政、医療機関、民間が連携して様々な取組を行ってきた。特に長寿の里「佐久」プロジェクトの1つとして、健康食、健康食品のブランド化を目指し取組んでいる「花咲く長寿レシピ」は、脳血管疾患の予防対策のひとつである減塩に注目した「おいしい適塩食」として近年開発を進めている。

高齢者を含め多世代の方を対象に、佐久地域の飲食店等で活用できる健康食メニューの開発や地域への発信を行うことで継続的なブランド構築を目指している。

事業内容

- 事業推進のためプロジェクト委員会を5回、飲食店で活用できる「花咲く長寿レシピ」の開発に向けた打ち合わせ・試作を20回実施した。
- 地域住民に向けた普及活動として、「ぞっこん！さく市」へ参加し、試食を実施したほか、「第4回 みんなでつくろう！長寿の里」を開催し、レシピ紹介やトークセッション、構成団体の活動紹介や試食等を実施した。また、構成団体の協力による健康講話や調理実習等を行う「花咲く長寿レシピ講習会」を一般公募型を含め9回開催した。
- レシピ普及に向け「花咲く長寿レシピ集」の作成・配布を行った。



【花咲く長寿レシピ集 (A5、12P)】

事業効果

- 目標（5レシピ）を上回る11レシピを開発した。
- 佐久市内飲食店5店舗と協力開発した5レシピのうち、4レシピはセットメニューとして各店舗で、1レシピは2店舗で展開（4店舗は新規店舗）し、好評を得ている。企業と連携し開発した健康食弁当（花咲く長寿弁当）は佐久地域の様々なイベントで販売し、好評を得ている。各レシピ・セットメニューを掲載したレシピ集や動画化した3レシピはホームページで公開している。
- 地域に向けた普及活動「第4回みんなでつくろう！長寿の里」は382名、「花咲く長寿レシピ講習会」は162名と目標を大きく上回る参加があった。イベント開催後は佐久市内外の方から問い合わせや視察依頼・調理報告をいただき、おいしい健康食の広がりを実感している。また、新規飲食店等からのレシピ開発要望や花咲く長寿レシピ講習会の開催要望があり、更なる展開が期待できる。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

現在のプロジェクト団体をベースに、佐久地域の飲食店や県内外の関係団体との連携を視野に入れ、おいしい健康食「花咲く長寿レシピ」の開発を発展的に実施する。

地域への普及については、活動を発展・継続させるため、地域イベントへの参加やイベントの開催、新規対象者への講習会を実施し、健康食のブランド構築に取り組む。

【選定のポイント】

高齢者を含む多世代を対象とした「飲食店で活用できる健康食メニュー（花咲く長寿レシピ）」や、企業と連携した「健康食弁当」の開発に取り組み、特に「花咲く長寿レシピ」は実際に飲食店で提供され好評を得ている。

レシピの開発要望やレシピ講習会の開催要望が予想以上に寄せられる等、事業効果に広がりが見られる。また、当団体が行う食や運動などの健康長寿に関連する取組との相乗効果が期待できる。

団体名	一般財団法人日本農村医学研究会 日本農村医学研究所（佐久市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0267-82-2485	事業費	3,465,580円
ホームページ	http://chouju-saku.jp/	支援金額	2,599,000円

児童館における体験教室・学習支援事業

取組に至る背景・事業の目的

親世代の失業・就労困難から子どもの学習意欲が奪われ、学習の格差が生まれ、子どもたちの自立を難しくしている状況にある。

そこで、すべての子どもたちに体験・学習する喜びと場を提供し、児童の自立を目指すとともに、地域の人材活用により地域活性化及び地域全体での子育てにつなげる。

事業内容

○学習支援

児童館内、児童クラブ内で、自ら学びたいと思う子どもの居場所となるよう、外部講師による寄り添い型宿題支援を実施。

○子ども食堂

地域の協力が整った地区で、学習支援に加え、子ども食堂を実施。食事を一緒に作ることで、一緒に食べることで、一緒に片づけることを通して、孤食を防ぐことや自立のサポートをした。

○体験教室

外部講師とともに年間計画を立て、貧困、保護者の多忙などによる子どもの体験不足を補った。卓球教室、サッカー教室、木育等に加え、子どもたちのエコショップ、防災マップ作りで地域を知る活動を実施。



【 学習支援 】



【体験教室 木育】

事業効果

○学習教室 H28年度 307回開催 7,431名参加

集中力がついた、不登校の改善、学力の向上、楽しみな時間が持てた等の報告があった。生きづらさを抱えている子どもや生活保護世帯からの参加もあり、生活困窮者支援につながっている。相談しやすい信頼関係が構築され、3年間の継続により学習面からの居場所の定着が見られている。

○体験教室 H28年度 132回開催 1,326名参加

木育授業では、椅子作りから山に興味を持ち、地域の芥子坊主山の整備事業に参加し、想像以上の力を発揮した。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・各児童館で必要とされている事業の継続と、新たな課題を解決するための自主事業に今後も積極的に取り組む。
- ・3年間この事業を継続して得られたノウハウを、利用者と地域を結びつけるコーディネーターとしての役割に生かしていく。
- ・学習支援と食育の繋がりのように当初は予想もしなかったことが、ここ2、3年で大きくクローズアップされてきている。常にアンテナを張り、子どもたちから見える地域の課題を拾い上げていく。

【選定のポイント】
学習教室や体験教室を通して、子どもたちに自信と居場所があることの安心感を持たせることができた。更に、地域の教員OB等の大人がボランティアとして関わり、地域全体での子育て支援に寄与した。また、参加者も多く、安定した事業実施ができており、自立運営の見通しが立っている。

団体名	特定非営利活動法人 ワーカーズユープ (松本市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	松本営業所長 伊藤 由紀子 0263-39-7444	事業費	1,021,575円
メールアドレス	nagano.jm@roukyou.gr.jp	支援金額	817,000円

視覚障がい者と伴に走り伴に歩くことをとおして心と体の健康をめざす 「しあわせ健康づくり」事業

取組に至る背景・事業の目的

視覚障がい者に健康運動・スポーツの機会を提供するための伴走者・伴歩者の拡大を図る。

- ①伴走者、伴歩者を増やす
- ②参加する視覚障がい者を増やす
- ③視覚障がい者と伴走、伴歩者をつなぐネットワークの構築
- ④視覚障がい者に会った時のマニュアルづくりと普及

事業内容

- ・視覚障がい者の運動機会を増やす目的で、伴走者・伴歩者を育成するため、月1回第4日曜日に定例会を開催。
「見えない体験会」も実施し、トレーナーに運動指導を受けた。
- ・一般理解者及び視覚障がい者の参加を増やすため、体験会を9、10、2月に開催した。
- ・伴走・伴歩アドバイザー養成講座を3月に実施した。
- ・伴走者・伴歩者と視覚障がい者をつなぐため、また、一般理解者を増やすため、ホームページを開設して、ブログで発信するとともに、SNSも利用した。



【 街中体験会 】

事業効果

- ・1年やってきて理解者が増えていることと視覚障がい者にも存在が広まって来た。延べ参加者150人。
- ・マスコミへの発信などもしつつ、視覚障がい者に会った時の対応の仕方など初心者向けのマニュアル開発が出来た。延べ参加者66人。
- ・安全を重視し、より社会的意義を意識した人達が現れた。受講者7人。
- ・フェイスブックページの開設に始まり、ホームページの開設、ブログによる発信は今の情報化社会には欠かせないアイテム。双方向のやりとりについては持っている電話機で行っているが、意思表示がしやすくなっている。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・学校や企業、地域などで「見えない体験」を実施し、視覚障がい者についての理解を深め、広めていき、理解し活動に加わってくれる人を更に増やす。
- ・視覚障がい者を見かけた時に、自然と声掛けが出来る人が増えることは、他人に温かな目を向ける社会の実現となり、外国人観光客の受け入れなどにも繋がるものと思う。

【選定のポイント】

視覚障がい者が日常生活の中で、安心して走ったり歩いたりする機会を増やし健康づくりに繋がる、松本地域では初めての事業であり、本人の健康維持においても、障がいのある人とない人とが共生する社会を作っていく上でも重要な取組である。

団体名	信州 伴走・伴歩協会（松本市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	代表 大谷 拓哉	事業費	931,156円
	0263-33-4079	支援金額	698,000円
メールアドレス	alpine.otani@gmail.com		

温故知新 御代田町民みんなで作る みよたかるた

取組に至る背景・事業の目的

町外からの転入者が多いため、古き良き御代田の文化などを次世代に伝承していくことが難しく、どのように町の特色を伝えていくかが大きな課題となっているため、町の魅力の浸透手段のひとつとしてかるた作成を考えた。

町民から広く詠み句や写真（絵）を募集しながら、御代田町の文化、歴史などの特色を活かしたみよたかるたを制作し、学校や福祉施設等へ配布するとともに、継続的に大会を開催し、次世代に町の特色を伝え、世代間の交流を図る。

事業内容

○テーマの列挙、読み句と写真（絵札）の募集を、町内の小中学校や公共施設、インターネットや回覧板などを利用して実施したことで、御代田のすばらしさを皆で発見し、句や写真にしたためて応募する住民参加型の事業とした。

○句と写真（絵札）の審査には一般の方にも参加してもらい、たくさんの方の目線で切り取られた町の特徴を審査により選定し「みよたかるた」という誰もが親しめる形にした。なお、札には本名と、本人のコメントを掲載し自尊心を刺激する形とし、絵札には写真を多く使い、まつりの空気感、建物のディテール、景色の美しさなどがダイレクトに伝わるようにした。

○通常のかるた遊びにはないオリジナルルールとして、「み」「よ」「た」の札を全部揃えられたら加点されるなどのルールを盛り込み、2017年1月9日に第1回かるたとり大会及び採用者への授与式を開催した。



【第1回かるた大会】

事業効果

○応募者総数 70 名

句応募 488 作品 写真（絵）応募 4 作品

- ・当初あまり予測していなかった町外からの移住者の投稿により、町の良さ（優位性）を既住者が気づかされた。
- ・御代田に関わる題材を発掘しながら取組む作業は、改めて地域を見つめ直す良い機会になった。
- ・採用者の名入りの札としたため、自分の名前が入ったかるたに自尊心を刺激されている人も多い。

○2017年1月9日 かるたとり大会開催

参加者約 50 名 会場来場者約 100 名

- ・世代を超えた人たちがかるたを囲み、町の話話を共通項にしている姿は、かつての人の関わり合いを思い起こすきっかけとなった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

さらなる「みよたかるた」の浸透をはかる。定期的なかるた大会開催はもちろん、本事業への関与者を更に増やしていきたい。ネットを使った情報拡散も積極的に行う予定。

【選定のポイント】

町外からの転入者が多い御代田町の次世代に、町の魅力を伝える浸透手段として、「かるた」を製作。詠み句と絵札(写真)を広く募集し完成したかるたで大会を開催した。

御代田に関わる題材を発掘しながら取組む作業は、地域の魅力発掘に繋がる良い機会となった。

団体名	NPO法人信州御代田ハピネスプロジェクト (御代田町)	事業タイプ	ソフト事業
ホームページ	http://miyotaown.com/	事業費	1,318,032円
		支援金額	988,000円

食育・食農教育事業

取組に至る背景・事業の目的

食の安全・安心に対する消費者の意識は年々高まりつつあり、JAが取り組んでいる食や農を通じた教育の重要性は増している。また、上小地域は自然豊かな環境に恵まれ、標高差など地域の特徴を活かした様々な農畜産物が生産されている。地域の農畜産物を知ることは、地域の特徴を理解し地域（農業）を守り振興していくことにつながり、結果として地域振興にもつながる。

本事業では、次代を担う若年層へのアプローチを意識し、親子で参加できるよう設定した。食と農に触れる機会を通じて、地元農畜産物の理解を深めるとともに、地域に伝わる伝統食の継承、地域住民との交流や親子の絆を深める機会となるよう取り組む。

事業内容

農畜産物生産者との交流や地元食材を使用した郷土食作りを通じて、親子で食や地域農業を学ぶイベントを開催した。

○KIDSサマースクール

地元食材（お米、野菜等）を使用し、生活活動サポーターによる食材の説明を受けながら、「おにぎらず」を料理した。農産物流通センターで地元農産物や流通の仕組みを学んだ。

○信州の名物おやきづくり&長門牧場体験ツアー

地元女性部が講師となり、伝統食や地域の話にも触れながら伝統食であるおやき作りを行った。長門牧場では牧場の仕事や加工製品について学び、バター作りを体験した。

○親子じゃがいも掘り体験INたかやま

高原野菜の産地である鷹山地区で地域や農産物の特徴を学びながら、じゃがいも掘りを体験し、収穫したじゃがいもを試食した。

○リンゴの収穫&農産物流通センター見学&地域の伝統食体験教室

家庭でも作れるよう、地元食材を用いながら伝統食である五平餅作りを体験した。圃場に出向き、りんごの収穫体験後、農産物流通センターの見学では地域の農産物や流通の仕組みを学んだ。



【地域の伝統食五平餅づくり】

事業効果

農業体験を通じて、地域や農業の特徴を学ぶとともに、食や農について親子で考える機会とすることができた。また、料理や農業体験を通じて、伝統食の継承や地域の魅力の再発見、地産地消を推進した。参加者や地域住民、生産者、関係者との協同活動を通じ、新たな交流や地域活性化を促すことができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

上小管内は多種多様な農畜産物が生産されており、各地域に特徴がある。今回の企画は一部の農畜産物や地域にとどまったので、今後も内容を変えながら継続していくことで本事業の事業効果をさらに高めていく。

次年度以降、今回参加者へのアプローチだけでなく、新たな参加者を加え、内容も工夫しながら多くの地域住民を巻き込みながら事業効果を高めていく。

【選定のポイント】

子どもたちが、生産現場での農業体験や地元食材を使った料理教室、生産者との交流を通じて、地域の食や農への理解を深めることができた。食と農をテーマに地域住民の交流や伝統食の継承、地産地消を推進することができ、今後の事業の継続・発展が期待される。

団体名	信州うえだ農業協同組合(上田市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0268-25-7800	事業費	406,351円
		支援金額	304,000円

槻木の廻り舞台を活用した地域活性化事業

取組に至る背景・事業の目的

茅野市泉野槻木地区には江戸時代に建築された廻り舞台があり、昭和 30 年代後半まで地元の青年団による「柳川劇団」がこの廻り舞台で踊りなどの芸能を披露し、地域の交流や絆を深めてきた。しかし娯楽の多様化などにより劇団の活動は休止し廻り舞台も使われなくなってしまっていた。

数年前、地元小学生の地域巡りで廻り舞台を知り、「是非ここを復活させたい」と願った児童と、当時の青年団の方々も高齢となり、地域芸能文化が途絶えることを憂っていた地元住民の思いが一緒となり、廻り舞台復活機運が高まり芸能祭の再開となった。

舞台づくりを通じた若い世代の地域愛の醸成、地域芸能文化の継承を図るため、子どもたちや若者、地域活動グループを中心とした実行力のある組織づくりを進めている。

事業内容

①柳川劇団再建事業

地域住民の「柳川劇団」や芸達者から地元児童や公民館活動グループ「柳川劇団AKBa」に対する伝統芸能（「炭坑節」「木遣り」「花笠踊り」など）の指導を行った。

②地域の連携による泉野地区芸能祭の開催

泉野小学校・槻木区・泉野地区コミュニティ運営協議会が共催し、地域の皆さんと一緒に楽しめる手作りの舞台として、槻木の廻り舞台「秋の会」を開催した。

③槻木区地域活性化委員会（ボランティア組織化）

柳川劇団OB・槻木区・地域の芸能団体・小学校ボランティア・公民館活動グループや泉野地区コミュニティ運営協議会の皆さんで協力して運営する組織が結成された。



【秋の会 柳川劇団と児童のコラボ】

事業効果

① 柳川劇団再建事業

「柳川劇団」や芸達者から地元児童や公民館活動グループに対する指導、槻木の廻り舞台「秋の会」での発表、柳川劇団と児童のコラボ発表を通して伝統芸能の継承を行うことができた。

② 地域の連携による泉野地区芸能祭の開催

柳川劇団・児童・園児・中学生・公民館活動グループ等 10 団体の出演や、地域外の立沢青年団の出演、柳川劇団と児童のコラボの実現により、木遣り、太鼓、吹奏楽吹奏、踊り、合唱等、盛りだくさんの舞台を作ることができた。

当日は地域の皆さん約 300 人の方々に、江戸時代に造られた迫力ある舞台（間口 7 間、奥行 5 間）での発表を見に来ていただき、地域の価値を再認識していただくことができた。

③ 槻木区地域活性化委員会（ボランティア組織化）

柳川劇団OB・槻木区・地域の芸能団体・小学校ボランティア・公民館活動グループや泉野地区コミュニティ運営協議会で運営組織が結成され、住民主体の地域づくりの契機とすることができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

廻り舞台「秋の会」も 2 回目ということで、全体にスムーズに事業を行えた。また地区外の団体の出演やコラボ、昨年制作した泉野のテーマソング「すべてのいのちが」の会場全体での合唱を行い、当日は大変盛り上がった。

「秋の会」を通し、子どもたちと地域の皆さんが連携して開催できたことは、地域の絆づくり、伝統芸能の継承にとっても役に立つ事業ができた。今後も、学校と地域の皆さんの連携を図ることや、文化交流の場として取組を継続するため、ボランティア等の協力者を増やしていきたい。

【選定のポイント】

さまざまな世代の地域住民が参画する活動により、世代間交流の促進、伝統文化の継承、郷土愛の醸成などによる地域の活性化が期待される。

団体名	茅野市 泉野 槻木区 (茅野市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	茅野市泉野地区コミュニティセンター 0266-70-1606	事業費	489,176円
メールアドレス	izumino@city.chino.lg.jp	支援金額	357,000円

市制施行80周年記念 オペラ「御柱」

取組に至る背景・事業の目的

諏訪地域独自の魅力を、芸術文化を通して発信していきたいという市民からの強い要望のもと、七年に一度行われる「御柱祭」を題材にした創作オペラの公演を実施することとした。一般公募による合唱団や児童生徒の合唱団、道具・衣裳等の製作スタッフに諏訪広域からの住民が参加し、プロとの交流、指導により舞台芸術への関心を深め、将来の芸術文化の担い手を育成すること、並びに市民自らの企画、運営、文化会館との協働により、この地域ならではの独自文化の振興を促進し、住民が合唱団や裏方で参加することで、地域の活性化や住民の活力あふれるまちづくりに貢献することを事業目的とした。

事業内容

○オペラ御柱を10倍楽しむイベント

合唱参加者を対象に、登場人物に縁のある神社等を巡り、作品への知識、興味の向上と参加者同士の親睦を図るウォーキングイベントを行った。

(6月4日、5日の2日間、計46名参加)

○岡谷市市民音楽祭出演

毎年開催の市民音楽祭に合唱団有志が出演し曲の一部を披露、公演のPRを行った。(11月3日、55名参加)

○オペラ「御柱」公演

日時：平成28年11月27日(日)

午後2時～午後4時45分

会場：岡谷市文化会館カノラホール

入場者：1,061名

参加者：159名(合唱団125名・実行委員会及びボランティア34名)



【公演の様子】

事業効果

○実行委員会、ボランティアスタッフが企画、運営、稽古指導等に携わることや、舞台監督など裏方として重要な部分を担うこと、出演者が指導者として活躍することなどにより、将来へ向けての経験の蓄積と人材育成が図られた。

○公演当日は満席に近い来場があり、市民が生き活きと歌い演じ大成功を収めることができた。前回(平成22年)子役として参加していた小学生が、今回は一般合唱団で参加するなど、継続的な取組とすることができ、今後のさらなる発展が期待される。

○県外からの来場者や、全国音楽雑誌への記事掲載、新聞記事で大きく取り上げられるなど、御柱祭の注目度と相まって芸術文化を通して諏訪の独自文化の発信に貢献した。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

参加者同士の親睦と「御柱」に対する知識と興味を深めてもらうためのウォーキングイベントを併せて開催し、楽しんで取り組んでもらえる工夫をした。今回の実行委員会が核となり、7年後へ向けてさらなる音楽的な質の向上と、運営に携わる人材の確保育成を目標に、7年間の間をつなげる公演やその他企画の具体的な検討に入る。地元の音楽団体等と協力し、さらに参加者の範囲を広げ発展を目指す。合唱参加者の充実だけでなく、これまで十分ではなかった裏方制作スタッフの育成にも力を入れていく。

【選定のポイント】

市民参画による公演の成功体験と、継続的な人材育成により、芸術文化によるまちづくりに繋がることが期待される。

団体名	公益財団法人おかや文化振興事業団 (岡谷市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	岡谷市文化会館カノラホール	事業費	20,335,486円
電話	0266-24-1300	支援金額	4,984,000円

山浦民謡ナンバ踊り普及及び継承事業

取組に至る背景・事業の目的

蓼科山から八ヶ岳の山麓 茅野・原村・富士見に昔から伝わっている民謡や踊りは伝統芸能として価値あるものである。だが今ではほとんど唄われることがなく、地区に盆踊りもなく踊り継がれてもいない。

そこで、これらを平成2年頃より掘り起し、採譜・編曲し、平成25年までに12曲をまとめた。

しかし、資料として残すだけでなく実際に唄い踊り継ぐことにより次の世代に承継するため、また邦楽教育のため、平成25年7月にかんてん蔵の前の広場で盆踊りを始めた。

事業内容

- ① 茅野市宮川のかんてん蔵で開催されたイベント“くらの市と村祭り”において、やぐらを組み提灯の下での盆踊りを実施（7月22日）
- ② 富士見乙事キャンプ場利用者と踊りの体験（8月26日）
- ③ かんてん蔵で三味線と唄と踊りの練習（毎月18日、一般参加可）
- ④ 毎月第2第4木曜日に踊りの練習
- ⑤ 発表会における踊りの披露（10月26日・茅野市民館）



【乙事キャンプ場での踊り】

事業効果

【①・② 踊りの体験】

イベント“くらの市と村祭り”と一緒にを行うことにより、多くの若者に参加してもらい、交流を図ることができた（参加者は120名位）。

また、富士見乙事キャンプ場には全国からたくさんの家族連れや若者が来ていて、輪になって踊ることやリズムが新鮮なことが若者に受け入れられ、約80人が入れ代わり立ち代わり踊り、楽しんでもらうことができた。

どちらの会場も若者が集まる場所で行ったことで、昔を懐かしく思い踊る人に加え、多くの若者にも楽しんでもらえた。「又来年も楽しみにしている」とうれしい言葉を頂いた。

盆踊りという場を通して老人も若者も年齢に関係なく一緒に楽しむことができ、多世代交流の場とすることができた。

【③・④・⑤ 踊りの練習】

新たに三味線を習いたい3人、唄を習いたい2人が練習を始めるなど、次世代への継承を図ることができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- これからも、くらの市と村祭りとの連携をしっかりととして、踊りを広めていきたい。
- 保育園・学校等ポスターやチラシで働きかけたが参加が難しかったので、他の方法を考えていきたい。
- 山浦ナンバ踊りは見てもらうのではなく一緒に踊って楽しんでもらいたいため、集客のためのPR方法を工夫したい。

【選定のポイント】

伝統的な民謡・踊りを掘り起こし、多世代交流が図られることにより、伝統芸能の継承による地域の活性化が期待される。

団体名	山浦民謡踊り保存連盟（茅野市）	事業タイプ	ソフト事業
電話	0266-72-6803	事業費	828,656円
		支援金額	621,000円

ようこそ、歌舞伎の世界へ 地芝居飯田公演事業

取組に至る背景・事業の目的

大鹿歌舞伎、下條歌舞伎は300年余も続いており、「地芝居」として永い間庶民に愛され、娯楽として上演されてきた。伝統芸能のファンを増やし、大切に守り、次代に繋げていく機運が今以上に地域に高まることを目指して実施した。

歌舞伎を「知る」をテーマに、歌舞伎公演の機会を保存会と地域住民に提供し、身近な地芝居を通して伝統芸能のファンが増えることを期待し、今後の大歌舞伎招聘に向けての足掛かりとした。

事業内容

1 地芝居公演

- (1) 大鹿歌舞伎保存会、下條歌舞伎保存会による合同公演
- (2) 日時 平成28年8月28日(日)
- (3) 場所 飯田文化会館ホール

2 地芝居を「知る」ワークショップ

- (1) 下條歌舞伎役者体験
出演する役者を地域住民から募集し、保存会の指導を受けて、本番の公演に出演した。
- (2) ふるさと歌舞伎探訪
歌舞伎ゆかりの地を巡り、地芝居への理解を深めた。



【歌舞伎公演の様子】

事業効果

1 地芝居公演

大鹿歌舞伎、下條歌舞伎、どちらも熱演で、多くの観客に感動を与えることが出来た。また、合同公演は初の試みで、両保存会の交流のきっかけとなった。(販売数861席、入場数764名)

2 地芝居を「知る」ワークショップ

- (1) 下條歌舞伎役者体験
役者体験をすることで、地芝居の魅力を体感していただくことが出来た。また、保存会員との繋がりや交流が出来た。下條歌舞伎保存会で役者を村外から募集することは初の試みであったが、公演終了後も参加を継続する方がいて、後継者育成にもなった。(児童1名、一般1名)
- (2) ふるさと歌舞伎探訪
地芝居の歴史を学び、舞台等を見学することで、地芝居や伝統芸能に対する関心や興味を深めることが出来た。(大鹿コース28名、下條コース24名)

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・地域で活動する保存会員、歌舞伎に興味のある郡市民、舞台芸術の知識をもった方などから実行委員会を組織し、企画から運営までを担った。活動を通して、実行委員自らも地芝居へのさらなる興味が生まれ、深みを追求しながら事業に取り組むことができた。
- ・今後も伝統芸能のファン拡大に取り組みながら、大歌舞伎招聘に向けて研究を続けていく。

【選定のポイント】

大鹿歌舞伎と下條歌舞伎、初の合同公演を飯田文化会館で開催。地域に伝統芸能への関心が広がり、歌舞伎の振興に繋がった。芝居を鑑賞するだけでなく、保存会との交流や、ゆかりの地探訪など、内容を工夫した点を評価。

団体名	舞台芸術鑑賞事業企画委員会(飯田市)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	飯田文化会館 0265-23-3552	事業費	1,372千円
		支援金額	536千円

“直虎”と“亀之丞”がつなぐ歴史浪漫の里たかもり ～青葉の笛プロジェクト～事業

取組に至る背景・事業の目的

「井伊直虎」のいいなずけ、亀之丞（後の「井伊直親」）が少年期に高森町の松源寺で過ごしたことから、遠州井伊家と高森町は深い関係にある。大河ドラマを契機に地域住民が自分たちの地域を知り、住民自らが学び合う環境づくりへと繋げていく。

事業内容

- 1 講演会の実施
 - (1) 内容：「松岡氏と井伊氏 -伊那と遠江をつなぐ絆-」
 - (2) 講師：梓澤要氏（女にこそあれ次郎法師著者）
 - (3) 日時：平成 28 年 9 月 3 日、聴講者：250 人
- 2 未来につなげる井伊・松岡歴史ロマンづくり
 - (1) 説明板、案内板を各 1 基、文化財標柱を 3 基設置
 - (2) PR用パンフレット、リーフレット、のぼり旗の作成
 - (3) 資料館にて特別展を実施
 - (4) 地元地区を対象とした現地学習会の実施
- 3 環境整備事業
 - (1) 松岡城跡環境整備 草刈
 - (2) 松岡城跡景観整備 本丸・二の丸周辺の景観整備



【講演会の様子】



【イベントで幟旗を活用】

事業効果

- ・案内板や標柱、のぼり旗等を設置し、事業を広報たかもりでも連載したところ、多くの方に興味を持っていただいた。資料館にて行っている大河ドラマに関連した展示を見学するために、来館者が増加した。また、大河ドラマ以外の高森町の歴史や文化財の魅力を知ってもらうことに繋がった。
- ・パンフレットは、すぐに在庫がなくなるほどの好評で、大河ドラマとの関係を知るうえで非常に効果的なツールとなった。講演会の会場が満員となったのは、その表れであった。
- ・現地案内ガイドを募集したところ、町内20名余の方にご協力いただいた。文化財や歴史に普段興味のない方々にもご参加いただいたことは、本事業の大きな成果であった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・大河ドラマという媒体を活用したことで、多くの方に興味関心をもっていただいた。このきっかけを大切に、さらに地域の魅力を知ることにつなげる。また、次世代へ取り組みを繋げ、地域に対する関心を高めていくために、学生世代を対象として連携していく事業を考えていく。
- ・現地ガイドについても、学習会を企画するなど、自立した組織化を検討し、自ら学びあう環境づくりの輪を広げていく。

【選定のポイント】

NHK大河ドラマを契機に、住民が自分たちの地域の歴史や文化を再認識する機会となった。講演会、学習会で学んだ成果は現地ガイド組織に繋がっており、今後の観光誘客の基盤ができた。

団体名	高森町教育委員会事務局(高森町)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0 2 6 5 - 3 5 - 9 4 1 6	事業費	2, 2 7 6 千円
ホームページ	http://www.town.nagano-takamori.lg.jp/index.html	支援金額	1, 5 9 6 千円

七年に一度「奇祭」狐の嫁入り行列文化継承事業

取組に至る背景・事業の目的

善光寺街道宿場町青柳宿は、青柳宿本陣や岩山を切り開いた切通し、石垣水路等文化財が豊富だが、貴重な文化財の活用や保全の危惧、そして里坊稲荷神社祭典、特に七年ごとに行われる「奇祭」狐の嫁入り行列は、少子高齢化により継承が危ぶまれ、嫁も含め全て男性のみで行われる珍しい祭りを後世に伝えることが喫緊の課題となっている。

この祭りを継承する為、準備から祭典までの記録を映像として残し、更に地域の魅力を発信するとともに、宿場町特有な呼び名「屋号」を新たな観光資源として活用することにより、青柳宿を愛する地区の人たちの祈りと情熱が、七年後の次回、そして未来へと繋がっていくことを目指したい。

事業内容

地域の豊富な文化財を紹介するとともに、七年に一度開催する「奇祭」狐の嫁入り行列の準備から祭典当日までを収録したDVDを作成し、7年後の次回そして未来へ繋がるよう、地域住民や観光客そして県内外へ配布した。

また、宿場町特有な家名「屋号入り提灯」を作成し、既に行っている竹灯籠と共演で幻想的な明かりで宿場町を照らし、新たな魅力として発信し、観光客誘致を図った。



【 狐の嫁入り行列 】

事業効果

- ・ 6年ぶりに小学生に小太鼓を教えることができ、後継者を育成することができた。また、この事業で記録映像を作成し後世に文化継承することができた。
- ・ 七年に一度の「奇祭」。犬を飼わない地区。色々な条件が重なりマスコミ各社で取り上げていただき、特にNHK、TSB、ABN、SBC、NBC 5社がニュースで放映、善光寺街道青柳宿をPRできた。
- ・ 前夜祭として、初めてこの事業で購入した屋号入り軒先提灯と竹灯籠を点火し、大勢の方に見に来ていただくことができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今回、テレビ局5社と新聞4社、FM長野と県内多くのマスコミに報道していただき、県内外に大きなPRができた。引き続き後継者を育成し、七年後の開催を目指したい。また、記録映像を多くの善光寺街道青柳宿を訪れる方に見ていただいたり、贈呈することで地区の活性化を図っていきたい。

【選定のポイント】
マスコミに大きく取り上げられ、村外からも多くの観光客が訪れて青柳宿のPRになった。今回作成した記録映像を活用して後継者を育成し、文化が伝承されていくことが期待される。

団体名	筑北村青柳区祭保存会(筑北村)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	会長 宮下 敏彦 0263-67-1161	事業費	2,781,000円
メールアドレス	toshihiko2040@vill.chikuhoku.lg.jp	支援金額	2,085,000円

「北アルプス国際芸術祭」における地域の魅力発信事業

取組に至る背景・事業の目的

北アルプスの山々を映す仁科三湖や、豊富な温泉など自然にも恵まれた大町市は、北アルプス登山の拠点として、また立山黒部アルペンルートの長野県側の玄関口として、多くの観光客が訪れている。

昭和 30 年代以降の電源開発に伴う企業進出により企業城下町として人口も 3 万 5 千人を超えていた時期があるが、過疎高齢化も深刻化し、人口減少が著しい。

そのような状況の中、土地固有の生活文化を表現する「食」と、地域の魅力を再発見する「アート」の力によって、大町市に内在するさまざまな価値を掘り起こし、地域の魅力を国内外に発信するとともに、住民が地域の魅力を再度見直し、地元の誇りを創出することを目的として、平成 29 年度に開催する「北アルプス国際芸術祭 2017 ～信濃大町 食とアートの廻廊～」に向けて魅力創出・発信に取組むこととなった。

事業内容

- 国際芸術祭タイアップレストラン
料理研究家の横山タカ子氏とイタリアンシェフの神保佳氏をアドバイザーとして招聘し、市内 13 店舗の飲食店が期間限定メニューを開発し、国際芸術祭タイアップレストランとして認定した。
- おもてなし小皿プロジェクト
来場者と地域住民の交流を図るため、地元陶芸愛好団体と小中学生らが 2,000 枚を超える絵皿を制作し、芸術祭開催期間中に、市内飲食店等で料理を提供する際に使用した。
- 魅力発信事業
国際芸術祭を国内外に発信するため、ウェブサイト、チラシ・ポスター等を制作し PR を実施した。



【おもてなし小皿プロジェクト】

事業効果

認定されたタイアップレストラン 13 店舗では、地域の食材を利用した期間限定メニューを提供する態勢が整えられた。また、ウェブサイトでの情報発信やチラシ・ポスターによる PR の強化も図ることができた。

芸術祭開催期間中の、限定特別メニューの予約は好調で、100 食以上提供された店舗や、予約のみで対応する予定の店舗が、観光客の要望により当日も提供するようになるなど、多くの観光客に大町の食を PR することができた。

おもてなし小皿も飲食店に好評で、お客様との会話のきっかけになるなど効果が大きかった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

当初は、団体客に昼食を提供できる期間限定の直営レストランの設置を計画していたが、地元飲食店と話し合いをしていく中で、新たに競合店を作るのではなく、市内に数多くある飲食店を活用して、タイアップレストランとして、大町の食を PR した。期間限定メニューを芸術祭終了後も継続して提供しているタイアップレストランもあるなど、大町の食のブラッシュアップにもつながった。

【選定のポイント】

芸術祭の開催期間中は、大町の食の魅力がアートとともに国内外に発信され、地域住民が地元の食文化の魅力再発見し、地域に誇りを持つ契機になった。今後も、飲食店関係者を始めとした住民主体による大町市の食文化の魅力向上に向けた取組が、継続して行われていくことが期待できる。

団体名	北アルプス国際芸術祭実行委員会 (大町市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0 2 6 1 - 2 2 - 0 4 2 0	事業費	7, 2 7 3, 9 6 4 円
ホームページ	http://shinano-omachi.jp	支援金額	4, 9 9 3, 0 0 0 円

ふるさとの歴史・文化遺産を未来に！ 伝承事業

取組に至る背景・事業の目的

山ノ内町在住の松田レイさん（102歳）は地域の歴史や民話を題材にした紙芝居をつくり、自ら語り聞かせる紙芝居作家である。松田さんが聞き取り集めた地域に残る歴史・民話は、過去の災害からの教訓や道徳観など、その地に暮らす人々の経験や知恵の積み重ねであり、先人の言葉を伝えていく必要性がある。

100歳を超えてなお精力的に活動する松田さんの姿もまた、ひとり一人がやりがいをもって行動に移すことが健康長寿の秘訣であるとし、作品を後世に伝えるだけではなくその半生を記録に残すことが多くの人に勇気を与えると、地域づくり団体「おもしろ夢倶楽部」が発案し、紙芝居絵本を出版するに至った。

事業内容

- 紙芝居絵本「松田れい子のふるさと紙芝居」を発行
- 松田さん自身による紙芝居の上演会
- 町内に残る古い写真の収集及びデータ保存

事業効果

- 松田さんの活動そのものに地元のお年寄りが共感できる部分が多く、健康長寿につながるモデルケースとして広く周知できた。
- 発行した紙芝居絵本を県内図書館等に寄贈し、利用してもらうことにより、観光地・山ノ内町（湯田中）の歴史的背景や特色を文化的な面からPRできた。



【 紙芝居上演 】

工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

- 今回発行した紙芝居絵本を松田さんの出身地である山ノ内町・渋温泉の全旅館に置き、観光地としての歴史的背景や特色をアピールしていく。今後は「道の駅」などで紹介してもらうことで、さらに町全体の観光資源の一端を担っていく。
- 図書館やイベントなどで利用してもらい地元に残る物語を知ることで、子どもたちが郷土に愛着と誇りを持つひとつの機会としていく。
- いきいきと郷土で暮らし健康長寿を目指すモデルケースとして、あらゆる地域において紙芝居上演を開催するとともに、松田さんの生き方を紹介していく。

【選定のポイント】

民話紙芝居を絵本として形に残すことにより、地域の歴史や災害の教訓を子供たちに伝えることができた。また、松田さんの活動そのものが地域に暮らすお年寄りの励みになり、健康長寿県のモデルケースとして高く評価できる。

団体名 おもしろ夢倶楽部(山ノ内町)
連絡先 0269-33-4405

事業タイプ ソフト事業
事業費 742,142円
支援金額 556,000円

ふれあいカフェ 地域住民の憩いの場所づくり事業

取組に至る背景・事業の目的

少子高齢化によりお年寄りが増えるなか、隣近所の付き合いが少なくなり、住民で支え合いながら暮らすことが難しくなっている。このような課題解決に向け、地域住民が気軽に集まれる場所が必要であると考えたが、従来の公民館や児童館等は使用するのに手続きが必要であり、使用制限もある。

そこで、子どもからお年寄りまで気軽に交流できる場所として「ふれあいカフェ」をつくり、地域の活性化につなげようと取り組んだ。

事業内容

空き店舗（農協旧生活店舗）の店内を改装し、住民が気軽に交流できる場所「ふれあいカフェ」を整備した。

チラシや広報・リーフレットにより地域住民へ「ふれあいカフェ」の開店や活動状況をお知らせした。

ふれあいカフェ完成後は日常的に囲碁大会や編み物など趣味を楽しむ催しや、地域の子どもの学習発表会、住民によるクリスマス会など、世代を越えて参加できる様々なイベントを開催した。



【子どもたちによる学習発表会】

事業効果

週4日開店し、子どもからお年寄りまで地域住民が気軽に立ち寄ることができる場所をつくることができた。「ふれあいカフェ」を会場に、趣味を楽しむ集まりや、小学生が地域住民から「昔の暮らし」について勉強する会などが催され、世代を越えた住民の交流が生まれており、県内外からの視察も多い。

(平成28年8月18日～平成29年10月21日までの来店人数：5,196人、1日平均21.4人)

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

チラシや会報の発行、口コミを通じて地域への更なる周知を図るとともに、現在11名のボランティアスタッフを増員し、地域の憩いの場として毎日開店できるよう取り組みたい。また、定期的な趣味の集まりを開催したり、子どもの利用を促し、より多くの住民が交流できる場としていきたい。

自力で運営できるよう、農産物を販売する朝市の開催や、飲み物の有料化、不用品の販売等による運営資金の確保を検討していきたい。

【選定のポイント】

地域住民が集まり、様々なイベントを通じて、子どもから大人まで幅広い年代が交流できる場をつくり、地域交流の促進に寄与することができた。他地域からの視察もあり、地域づくりのモデル的な事業となっている。

団体名	しげの里づくりの会(東御市)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	東御市滋野乙205-1 (おらちのえんがわ内)	事業費	3,713,938円
		支援金額	2,553,000円

祇園祭の賑わいを活かし、宮田宿の再発見と交流を楽しむ事業

取組に至る背景・事業の目的

歩く人もまばらで駐車場が目立つ宮田村の「まちなか」だが、宮田宿の歴史を今に伝える町屋、蔵、水路などが残り、祇園祭の賑わいは続いてきた。まちなかは、歩いて暮らせる、歴史を活かす、お年寄りも障がいをもった人もみんなが生き生きできる地域の拠点として、とても大切な場所である。本事業は、歴史的町並みの景観の中に複数の福祉施設が近接して立地する特徴を活かしながら、障がい者を含む地域の住民が歴史・文化を味わい交流することにより、3年間で集中的に賑わいを再生することを目的として、「まちなか福祉オープンカフェ」、「まちなか探検ガイドツアー」、「まちなか博物館」、「まちなか交流会」、「まちなか広報グッズ」の各事業を相互に連携させつつ展開したものである。

事業内容

- 福祉施設と連携し、まちなかで「まちなか福祉オープンカフェ」を開催することで、新たな賑わいを創出した。
- まちなかの魅力を住民、来訪者と楽しむため、歴史・文化的景観資源を講師と歩いて探検する「まちなか探検ガイドツアー」を催行した。
- 宮田宿や祇園祭の魅力を発信するとともに住民のアイデンティティを高めるため、教育委員会と連携し、期間限定の「まちなか博物館」を公民館、福祉施設で開館した。
- まちなかの課題を連携して解決するきっかけづくりに、多くの地域活動団体と「まちなか交流会」を開催した。



【まちなか体験ガイドツアーの様子】



【まちなか博物館の様子】

事業効果

- ・売上募金額、参加者数、来館者数の数値目標は全て達成した。
【まちなか福祉オープンカフェ売上金、募金】154,434円(達成率154.4%)【まちなか探検ガイドツアー参加者】47名(達成率117.5%)【まちなか博物館来館者数】398名(達成率442.2%)【まちなか交流会参加者数】72名(達成率120.0%)
- ・延べ30を越える団体、企業と連携することができた。
- ・障がい者の参加については、福祉施設利用者の家族から「地域とつながる第一歩が実感できた」、「大きな励みになった」との評価を得ることができた。
- ・以上の活動を通じ、〈歴史、文化、福祉、賑わいが共存〉する〈新しいタイプの中心市街地〉をめざすという将来ビジョンが得られ、賑わいを創出する足がかりをつくることができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・宮田村最大のイベント「祇園祭」に合わせて各イベントを実施するなど、イベント間の連携、集約化により年中行事化することで定着を図った。またアンケートを実施し、成果や課題を関係者で確認しながら進めた。その結果、各イベントが定着し、平成29年度の規模、企画の発展につながっている。
- ・行政からの支援金を得ずに活動を継続、展開する財源確保の仕組み作りが課題となっている。
- ・平成29年度は、各種団体、企業、行政との連携を一層強化し、まちなかを活用した初めてのマーケットの開催、ガイドブックの発行、まちなかベンチの設置、古写真収集等を準備している。また、宮田宿一帯が宮田村景観計画の歴史保全区域に指定されたことを受けて、町屋、蔵の活用を考えるシンポジウムを開催し、今後、町屋、蔵の活用で上伊那全域の団体と連携していくことを検討している。

【選定のポイント】

宮田村の歴史を今に伝える宮田宿のまちなみを多くの地域住民に伝えるために、まちなか探検ガイドツアーの実施等、地元や企業等と協働して中心市街地の活性化に寄与した。

団体名	宮田村の景観を考える会(宮田村)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	会長 天野 早人	事業費	1,689,050円
	0265-85-2017	支援金額	1,175,000円
ホームページ	https://miyadanya.jimdo.com/		

八坂切久保堤棚田ふれあいパーク整備事業

取組に至る背景・事業の目的

大町市八坂（切久保地区）は、山村留学発祥の地で、山村留学を受け入れている公益財団法人育てる会八坂美麻学園があり、現在も多くの都市の子どもたちが山村留学をしている。学園が位置する場所から望む八坂切久保堤棚田の景観は素晴らしく、山村留学生の父母から、この地域の原風景として環境保全が望まれている。この棚田は、機械が入らないことで作業効率が悪いことなどにより長年耕作放棄されていた田畑を、山村留学生の父母ら都市住民と地域住民の交流活動等により稲作ができるまで復活させたものであり、その保全活動は10周年を迎えている。

この活動の更なる発展と多くの都市、地域住民の交流の拠点と、農村環境保全に資するため、棚田の展望が良く、利用しやすい場所にふれあいパーク（東屋）を建設した。

事業内容

地元の木材にこだわり、八坂切久保地区森林整備による間伐材を使用して、東屋1棟、テーブル3基・ベンチ6基・案内板3基を設置するとともに、東屋までの散策道を約30m整備した。

これらの整備は、都市、地域住民との協働で行い、天候に左右されながらも、支柱材の皮はぎ、組立、現場加工、塗装など、手作り作業で行った。

作業の様子は、フェイスブックで発信をした。



【 東屋の屋根組の組立 】

事業効果

公園は、都市住民と地域住民、延べ178人が参加し、10日間の作業で完成させた。平成27年度の棚田保全活動に参加した都市住民と地域住民は、105人であり、約70%の増となった。完成された施設により、堤棚田の景観が一段と良くなり今後の保全活動の推進力となった。多くの都市住民と地域住民の絆を強くするとともに、長年の都市農村交流の大きな成果となった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

整備したふれあいパークは、山村留学生とその父母、地域住民との棚田維持保全活動の拠点として活用しながら、今後も地域の景観を維持していく予定である。

整備に参加した山村留学生のOBや父母からは、「山村留学の後輩たちに公園からの景色を楽しんでもらえれば。」「遠くの山まで見渡せ景色がすばらしい。地元の人や山村留学の子どもたちが一息つける場所になればうれしい。」という感想をいただいている。

【選定のポイント】

広場周辺の草刈りや散策道の管理は、今後も協働により継続され、地域の景観が守られることが期待できるほか、今回整備された展望広場は、棚田が一望できる地域の憩いの場として、あるいは観光スポットとしての活用が期待できる。

団体名	農の心人をつくる会（大町市）	事業タイプ	ハード事業
連絡先	大町市八坂8228	事業費	1,133,000円
		支援金額	755,000円

八方尾根植生回復及び高山植物保護事業

取組に至る背景・事業の目的

八方尾根は中部山岳国立公園の特別保護地区・第1種特別地域にも指定され貴重な自然の宝庫である。八方尾根自然環境保全協議会は、この雄大で美しい八方尾根の自然環境を保全していくため、地元住民で組織し、毎年ボランティアを募りながら裸地化した場所の復元や、貴重な高山植物の保全啓発活動、高山植物を駆逐する外来植物の侵入防止や駆除活動等を行ってきた。

近年、学校登山や高山植物を楽しむ多くの人々で賑わい、年間何十万人もの利用者がある。しかし、雨水による表土の流出や植物の踏み付け等により裸地化が随所に見られる。

八方尾根は大部分が蛇紋岩分布になっているため、降水や融雪による土壌の流出が起こりやすく、貴重な高山植物が植生する分布域にも裸地化が進み、継続的な保護保全の対策と活動が必須である。八方尾根の自然を多くの方々に楽しんでもらい、後世まで残していくため、植生回復作業及びネイチャーラベル設置作業等の事業を実施した。

事業内容

○植生回復事業

八方尾根第2ケルン下方の裸地化した箇所 300 m²に、高熱処理したグリーンフォーマットの端と端を重ね、隙間のないよう敷き詰め、グリーンパトロールが採取した高山植物の種子を播種した。

○ネイチャーラベル設置作業

高山植物の名前等を記載したネイチャーラベル設置作業は、山の日制定に伴うキャンペーン企画として行われ、県保全研究所植生担当者の八方尾根の特性に関する講話の後、自然観察会の際に、公募の一般参加者と地元住民が協力して 30 枚を設置した。



【グリーンマットを敷き詰めて植生回復】

事業効果

自然研究路より第2ケルンを望む、広範囲の裸地化した箇所（300 m²）の保護が図られた。

各団体よりボランティアとして約 60 名が八方尾根の自然の保護保全に参加し、それぞれが熱心に作業をしながら汗する姿に、今後も事業が継続的に引き継がれて行くことを感じた。

八方尾根の高山植物が多く自生する環境を活かし、植物の名や特徴を記しているネイチャーラベルの設置は、登山者に好評を得ている。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

平成 28 年度に植生回復作業を行った第2ケルン下方の南斜面は、八方尾根自然研究路より第2ケルンを望める場所が広範囲に渡り裸地化しており、今後も継続的に植生回復作業を行う必要がある。また、台風の影響により、45メートルの強風で以前作業をした所の植生マットが剥がれた部分が数か所確認され、今後補修が必要になる。

【選定のポイント】

植生回復を図る事業は約 18 年間実施されており、八方池周辺などで着実に緑化の効果を上げていく。また、ネイチャーラベル設置は登山者らに八方尾根の自然の魅力を伝え、自然観察の場を提供している。今後も地元住民やボランティア、関係団体との連携により、自然保護活動が継続されていくことで、八方尾根の高山植物が次世代に引き継がれていくことが期待できる。

団体名	八方尾根自然環境保全協議会 (白馬村)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0261-72-2477	事業費	1,538,566円
		支援金額	1,153,000円

児宝安産縁結び・しもすわ開運プロジェクト事業

取組に至る背景・事業の目的

「99分のまちあるき」マップは、宿場町でありコンパクトシティである下諏訪町の地理的特性を生かしたマップで、秋宮、春宮、春宮大灯籠を結ぶ、三角八丁という三角地帯の中を周遊する目的で制作されている。近年、来訪する観光客に人気であり、マップを片手に町を散策する観光客が増加している。しかしながら、このマップは町内の散策ポイントを同列の扱いで簡単に説明するだけのものであり、散策ポイントの選択が観光客に委ねられている。

各ポイントをつなげるストーリーを提案できれば、目的を持ったまちあるきを促し、滞在時間の延長や、地域の歴史・文化への理解をより深めることができると考えた。

事業内容

- プロジェクトメンバーによる検討会の開催
旅館組合、財産区、観光協会、観光係を交えて実施。
- 各スポット（6箇所）への統一した看板設置
万治の石仏、結びの杉、かな焼地藏尊、児宝地藏尊、子安社
いなり地藏尊に日本語・英語表記の看板設置。
- 開運めぐりリーフレットの作成（10,000部）
A3サイズ観音開きにて作成。
- ホームページ（<https://shimosuwaonsen.jp/kaiun/>）の作成
観光協会のホームページ内に作成。
- 周遊を促すための手ぬぐいの作成（500枚）
開運に由来がある柄で作成。全てのスポットを巡った方に
プレゼントした。



【リーフレット・手ぬぐい】

事業効果

- ・プロジェクトメンバーの連携により、開運めぐりリーフレットを掲載店や旅館、駅、観光案内所、温泉施設、休憩所などに設置し、観光客に目的を持ったまちあるきを楽しんでいただくことができた。特設ホームページへのアクセスは、月320件程度ある（4月～9月集計）。
看板にキーワードを埋め込み、キーワードを集めた方に手ぬぐいをプレゼントした。
引換を開始して117日間で延べ495名が引換（引換者内訳／女性70%、男性30%）
- ・町内の各種団体が連携して新たな観光振興の取組を進めるきっかけとすることができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今後の取組としては、開運絵馬を掲げられる場所を設置し、それに個別の願いを書いてもらうことを構想している。設置候補としては児湯・手ぬぐい交換場所の儀象堂、町案内所が考えられる。また、願いを叶えてもらった人のお礼参りでの再訪を試みる。

次年度は、今回無料で配布した手ぬぐいを、回った人に割引で販売することを計画している。また下諏訪町内各所で汲める温泉を自宅でも楽しんでもらえるよう、くみ湯をしなくなる仕組み等も構想している。

【選定のポイント】

観光協会、旅館組合、財産区が協力して行う継続した取組により、観光誘客の促進、滞在時間の増加が期待される。

団体名	下諏訪温泉旅館組合（下諏訪町）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0266-28-2231	事業費	1,638,144円
ホームページ	http://shimosuwa.com/	支援金額	1,150,000円

誰とでも楽しめるユニバーサルフィールドづくり「あなたの手は誰かの翼」

取組に至る背景・事業の目的

諏訪地域の観光地では車いす利用者を含む歩行に不安のある観光客が安心して、気兼ねなく楽しむことができる受入環境が整っているとは言えない。

富士見高原リゾートでは2010年より ataAlliance (エーティーエーアライアンス) 中岡亜希氏と共に、「誰とでも楽しめる場所」を「ユニバーサルフィールド」と定義し、受入環境整備を実施してきた。2015年には関連する利用者数が年間3万人を超え、次の旅行先として諏訪、長野県内が求められるようになった。

野外環境で活用できる車いす「HIPPO」や「JINRIKI」は県内の山岳高原観光地や寺社仏閣等でも活用できる可能性がある。反面、運用には技術と理解が必要となる。講習や体験会を実施することで現地の理解、支援者の育成、啓蒙を行うこととした。

事業内容

- ① ユニバーサルフェス (10月9日、10日)
車いすに対応したアクティビティや機器を紹介するイベントの開催 (車いす利用者 50名)
- ② ユニバーサルガイド育成、モニターツアー
介護士、観光ガイド等を対象にした野外活動指導
- ③ 冬のガイド講習、体験会
 - ・デュアルスキーパイロット・ガイド講習会
 - ・教職員向けデュアルスキー等体験会
 - ・スキー関係者向け体験会 (白馬・銀嶺国体)
 - ・デュアルスキー体験会 (木島平、飯綱、長和など)



【銀嶺国体アルペン競技デモ滑走】

事業効果

- ① ユニバーサルフェスの開催を通して障がい当事者、介助者の交流促進を図ることができた。
- ② モニターツアーの実施することにより、下諏訪町において JINRIKI チェアカート 2 台の導入の実現につながった。
- ③ イベントや報道の効果により長野市や白馬村に推進団体が生まれた。
- ④ ツアーガイド、サポーター育成と共に、教職員、行政関係者、観光従事者などの理解が進んだ。
- ⑤ 林務部、教育委員会などの協力による山の日関連イベント、銀嶺国体などにて活動を紹介することにより、ユニバーサルツーリズムのPRを行うことができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ① 人材育成については国内の前例がなく、手探りでやっている。事業実施の過程で信州大学の協力が得られたことは、県内に展開するガイドラインの作成に寄与する。
- ② 利用希望者に対するサービスの一元化 (情報提供、人材紹介、機器貸出しなど) が必要であるが、観光協会、ホテル旅館などの理解が必要である。人材育成、備品導入等については引き続きできることから環境整備を進めたい。
- ③ ユニバーサルフェス 車いす利用者向けのイベントとしては、トイレなど開催地のハード面に不安がある。規模が大きくなってきているため、次回以降は開催方法を検討する必要がある。
- ④ 要望の多い、温泉入浴を可能にする支援人材の育成、受入施設の確保 (H29 実施)
- ⑤ 県内には予算、施設等の制約から「バリアフリー化」を実施できない施設も多い。歩行弱者の観光利用を対象にした施設整備、運用に関するガイドラインを検討し、引き続き事例や人材を増やしていきたい。

【選定のポイント】

イベントを通じ地域住民が施設への愛着や御柱祭への誇りを持ち、地域の活性化、祭文化の幅広い伝承が期待される。

団体名	ユニバーサルフィールドづくり実行委員会 (富士見町)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0266-66-2121	事業費	5,000,000円
メールアドレス	info-2@fujimikogen-resort.co.jp	支援金額	3,750,000円

米俵で飯島町を元気に!! 事業

取組に至る背景・事業の目的

- ・飯島町は県内有数の米の産地であり、耕地面積の8割を稲作が占めています。飯島町は江戸幕府の直轄領として良質な米を生み出してきましたが、後継者不足や米価格の下落、米消費量の減少など飯島町の稲作を取り巻く環境は非常に厳しくなっている。
- ・そのような状況の中で、飯島町の稲作の活性化、飯島産米のPR、失われつつある米俵の伝統技能の継承や米俵の良さを知る機会を創出するために、米俵を用いたマラソンイベントを開催し、地域住民のボランティア協力を得ながら飯島町の活性化に繋がる取組である。

事業内容

- ・「めしのしま」飯島町の知名度の向上と地域の活性化を図るため米俵をテーマにしたマラソンイベントを実施した。
- ・地域住民のボランティアとともにイベントを実施し、飯島町内の交流人口の促進と知名度向上に寄与した。
- ・マラソン後はマラソン参加者へ飯島産米を無料提供する食のイベント「飯島町ごはんですよ」にて飯島産新米を振る舞い米をPRした。
- ・マラソンランナーとの交流を目的に米俵製作ワークショップを開催した。
- ・米俵職人を養成し、伝統技能を継承した。



【大会の様子】

事業効果

- ・米俵マラソンが全国放送や全国紙で取り上げられるようになり、飯島町の知名度は飛躍的にアップした。
- ・大会当日だけでも300名以上のスタッフが参加し、沿道の応援や後方支援、物品の提供、協賛を含めると1,000人以上の参加があるなど、米俵によるまちづくりの広がりを実感している。
- ・米俵マラソンを通して飯島町の知名度がアップしたことにより、町外からのマラソン参加者が飛躍的に増えたとともに、Facebookでは1つの記事で8,000人以上の閲覧があるまでになった。回数を重ねるごとに参加者が増え、手応えを実感している。Facebookで俵富士を紹介したところ、それ目当てに県外から来る観光客が増加した。また沿道での応援と写真撮影のために町外から多くの観光客が来町した。
- ・米俵マラソンで50俵の米を消費販売し、食のイベント「飯島町ごはんですよ」では3俵の米を完食するなど、米の消費拡大に貢献できた。
- ・TBSテレビの「クイズ☆スター名鑑」の企画でタレントのボビーオロゴンさんが参加し、番組で取り上げられた。
- ・失われつつある米俵製作の伝統技能を継承することができ、米俵職人が10名以上となった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

平成29年度11月に実施する第5回米俵マラソンの開催に向けて、多くの住民を巻き込んだ取組を進めるとともに、飯島町役場と共同で組織体制を盤石化し米俵マラソンが継続できる環境づくりに取り組む。

【選定のポイント】

「めしのしま」の町として古くから米作りが盛んで、農業が基幹産業である飯島町の特徴を生かし、飯島産米とマラソンを組み合わせた新しいイベントを開催し多くの参加を得るとともに、伝統技能である米俵の制作技術の継承を図った。県内外から800名を超える参加があったほか、300名以上の町民ボランティアの参加など地域振興に寄与した。

団体名	飯島町米俵マラソン実行委員会(飯島町)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	事務局：0265-95-4881	事業費	6,327,318円
ホームページ	http://www.komedawara.jp	支援金額	1,224,000円
メールアドレス	info@komedawara.jp		

猿庫の泉周辺一帯の整備事業

取組に至る背景・事業の目的

「昭和の名水百選」（環境庁（現・環境省）選定）に選ばれた「猿庫の泉」は古くから茶の湯に適した名水と言われ、多くの皆さんに親しまれてきた。特に近年は遠方からの利用者や大型バスの観光客の来訪も増えてきた。

そうしたなか、羽場曙友会生産森林組合（以下、「羽場曙友会」）を中心に、地元の羽場まちづくり委員会、猿庫の泉保存会、飯田観光協会が実行委員会を立ち上げ、協力して利用環境の向上、整備に取り組んだ。

事業内容

- 1 前泉を新設
源泉に登る手前、坂道の間地点に新しい泉を設置し、体の弱い方やバスツアーで時間が限られている方でも手軽に名水を楽しんでいただけるようにした。
- 2 水汲施設の拡充
従来の水汲施設の改良、増設をしたことで、これまで順番待ちの行列が出来ていた状態が解消した。
- 3 景観を整備
地元小中学生を招待してツツジ、シャクナゲ、モミジ等の植栽を行った。周辺の間伐、草刈り、清掃活動も行った。
- 4 遊歩道の整備
前泉から源泉の方向にウッドチップを敷き詰めた遊歩道を整備し、爽快な森林浴が楽しめるようにした。



【景観整備の様子】

事業効果

- ・各施設が拡充、景観も整備され、茶の湯の愛好家をはじめ多くの皆さんが「猿庫の泉」を訪れやすくなり、来訪者が増加した。
- ・前泉、水汲施設の利用者からは多くの称賛の声が寄せられ、地域の魅力、地域の宝として、地元住民の自慢にも繋がった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・「猿庫の泉」周辺一帯は、所有者である羽場曙友会が、静寂で幽玄の別世界である環境を基本とし大切に守ってきたものである。保安林指定地でもあり簡単には駐車場の造成工事等は出来なかった。そうしたなかでの環境整備であり、景観の基本を守る事業としての工夫・検討には苦労をした。
- ・今後も、羽場曙友会（前泉、水汲施設、植栽地の管理）、猿庫の泉保存会（猿庫の泉周辺の管理、呈茶サービス）、羽場まちづくり委員会（清掃活動）、飯田観光協会（各種宣伝活動）が協力して、10年後に開通予定のリニア新幹線時代に向けて、地域の観光拠点となるよう整備していく。
- ・かつて「猿庫の泉」を見つけた不蔵庵竜溪宗匠がお茶をたてた「茶点岩」を中心に、猿庫の泉周辺を周遊するウォーキングコースを整備。自然を楽しみ、満喫できる観光地づくりを進めていく。

【選定のポイント】

羽場曙友会ほか地域団体、羽場地区住民、丸山小学校や飯田西中学校の児童生徒が参加し、協力して環境整備を行った点を評価。地域の宝である「猿庫の泉」の利用環境を向上させた。今後更なる利用客の増加が見込め、観光拠点としての発展が期待できる。

団体名	猿庫の泉活性化実行委員会(飯田市)	事業タイプ	ハード事業
連絡先	0265-22-4997 (羽場曙友会生産森林組合)	事業費	5,295千円
		支援金額	3,446千円

御嶽山麓観光再生事業 2 事業

取組に至る背景・事業の目的

平成 26 年 9 月の御嶽山噴火災害は、多くの登山客の尊い命が失われたことから、御嶽山は危険な山というイメージが国内をはじめ海外にも及び、今も木曾の観光面に大きな影響を及ぼしている。

安全対策と正確な情報を発信し、魅力ある山麓・高原を P R することで、木曾エリアの観光の柱である御嶽山の観光復興を目指す。

また、火山灰のため二の池からの取水が困難な状況を踏まえ、登山される方々に木曾の水を山小屋へ運んでもらう「水のリレーキャンペーン」を行うことにより、御嶽山の復興 P R につなげる。

事業内容

- 御嶽山登山安全ガイドマップを紙ベースで作成し、規制区域・登山可能ルート・火山情報・避難経路・登山届の提出などの情報発信を行った。
- 規制区域外の御嶽山山麓高原モデルコースを発信することで、御嶽登山に対する負のイメージからの脱却を図った。
- “御嶽山の山小屋へ水を届けよう「水のリレー」”として、御嶽山の山小屋営業期間中に 500ml のペットボトルを届けるキャンペーンを行った。



【御嶽山水コーナー】

事業効果

- 御嶽山登山安全ガイドマップを 6 月に 5 千部、7 月に 1 万部作成した。
- 旅行会社および登山スポーツ店への商談会やイベントで正確な登山情報をマップで示すとともに、登山口・山小屋でのマップ配布により、御嶽山への登山に対する注意喚起を行うことができた。
- 油木美林コース・御嶽縦走コースや開田高原を入れたモデルコースを新聞社で造成実施し、誌面で告知することができた。
- “御嶽山の山小屋へ水を届けよう「水のリレー」”は全体販売本数 5,000 本のうち、石室山荘・女人堂へは期間中約 1,000 本が届いた。「水のリレー」で山での水の大切さを次の人へ届けようという思いに賛同者が多くいた。販売本数 1 本につき 10 円を慰霊碑建立基金に寄付し、約 5 万円の協力ができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 御嶽山登山安全ガイドマップは、29 年度からは木曾観光連盟で作成する。
- 「水のリレー」については 28 年度事業で作成したラベル・ノベルティ他を活用して、29 年度は 5,000 本を目標に継続実施する。

【選定のポイント】

噴火の影響により立ち入り規制が行われている中で、規制区域を明示した御嶽山の防災マップの作成は有意義で評価できる。また、“御嶽山の山小屋へ水を届けよう「水のリレー」”事業については、29 年度から自主継続されており、今後も木曾地域の観光復興へ貢献するものと期待できる。

団体名	木曾町観光協会(木曾町)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0 2 6 4 - 2 2 - 4 0 0 0	事業費	1, 7 4 0, 0 2 8 円
ホームページ	http://www.kankou-kiso.com/	支援金額	1, 3 9 2, 0 0 0 円

誰でも楽しめるトレイルに！斑尾高原トレッキングトレイル ユニバーサル化事業

取組に至る背景・事業の目的

15年ほど前から斑尾高原観光協会内にトレッキング委員会というボランティア団体を組織し、総延長50Km以上、20数本のコースを整備してきた。北信地域には長野・新潟の県境を歩く全長80Kmの「信越トレイル」があるが、その起点としても注目を集めつつあり、トレッキングをはじめトレイルランニング、森林セラピー、冬のスノーシューツアーなど年間を通じ幅広いお客様に利用されるようになってきた。これまでは、公共交通機関でのアクセスが不便だったため、マイカー利用の観光客が多くを占めていたが、2015年の北陸新幹線飯山駅開業に伴い車を利用しない高齢者や外国人等にも利用していただけるよう、トレッキングトレイルやマップを利用しやすいものにするためリニューアルする必要があった。

事業内容

- トレッキング情報のユニバーサル化
 - ・道標（約180本）への英語表記の追加
 - ・トレイルマップのリニューアル（一部ローマ字併記）
 - ・HPのリニューアル
- トレッキングトレイルのユニバーサル化
 - ・トレイルの急坂部分の解消
- 新幹線飯山駅を活かしたトレッキングプログラムの企画、実施



【斑尾山頂の道標】

事業効果

- 近年増加している外国人ハイカーにも現在地や行先までの距離を把握してもらいやすくなり、利便性が向上した。
- HPでは「グーグルストリートビュー」を活用し、その場を歩いているかのような画像を提供することにより、トレイルの魅力を発信することができた。
- ペンション街からほど近い場所へトイレを整備し、利用者から好評を得ている。
- 「歩く」だけではないトレイルの活用方法（自転車、車いすの利用）を検討し始めた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 新幹線飯山駅を活かし、利用者がより参加しやすい魅力あるトレッキングプログラムを企画し、観光客数と滞在人口の増加を図る。
- トレッキングだけではないトレイルの楽しみ方を用意し、幅広いお客様を迎えられるようにする。

【選定のポイント】

道標やマップの英語表記のほか、足腰の弱い方や小さな子供も楽しめるよう遊歩道を整備するなどユニバーサル化を推進した。今後は飯山駅を活用したツアーなど新たなアクティビティプログラムの推進に期待したい。

団体名	斑尾高原観光協会(飯山市)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0269-64-3222	事業費	2,074,560円
		支援金額	1,536,000円

拡大版まちゼミにより、地域協働でまちづくりを進める事業

取組に至る背景・事業の目的

商店が地域住民や高校生と連携して、無料でプロのノウハウやコツを提供する「まちゼミ」を開催することで、店を知ってもらい、店主のファンをつくることで商店街の活性化を図る。

また、親しいまちづくり仲間として何でも相談できる環境を醸成し、まちづくりを話し合う基礎とするとともに、地域コミュニティの中心としての商店街の存在感、存在意義を高める。

事業内容

- 平成28年6～7月、8～9月、11～12月、平成29年1～2月の計4回、各20日間程度、受講料無料の少人数制のゼミ「得するまちのゼミナール(まちゼミ)」を開催。
- 1回の開催につき16～20講座を実施。
商店主や料理の専門家、高校生などが講師を務め、ストレッチ、包丁研ぎ、ウインナー作り、燻製作り、パソコン教室、鉢植え、レザークラフト、スマホ使いこなし入門、フラワーアレンジメント、中華料理店によるチャーハン・スープ・餃子・しゅうまいなど、イタリア料理店によるイタリアンの教室、おやきづくり、空き店舗を対象としたリノベーションの講座、手書き地図、ヘアアレンジ、家庭菜園の講座などを開いた。



【まちゼミ おやきづくり】

事業効果

- 講座数を多くしたことで参加者の選択肢が広がり、参加店・受講者ともに順調に増加した。
アンケートの評価が良いこと、繰り返し参加する受講者がいることから、お店のファンづくりには成果があった。
- 高校生や元高校教諭、料理家などの外部講師のゼミも3割ほどあり、多彩な講座ができた。
- アンケートでまちづくりやイベントについての意見もいろいろいただいたので、地域全体でまちづくりを進める素地ができ、またお客様の意見からまちゼミを改善し、継続開催していくことで多くの消費者とのコミュニケーションにつなげている。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 年間4回ぐらいの頻度で長期間継続開催をしていく。その都度、評価反省をして改善を繰り返していくことで、まちゼミや店づくりの方向性、まちづくりの方向性を見出し、地域協働でのまちづくりを進める。
- まちゼミをきっかけに空き店舗などで営業する店ができることを目標に仕組みづくりを検討している。

【選定のポイント】

商店街および商店主などが講師を務め「まちゼミ」を開催。年4回の開催で73講座に興味を持つ大勢の方の受講があった。うち、21講座は外部講師(高校生や地域住民)が務めた。

地域のマンパワーを活用することにつながり、商店街の活性化や交流の輪として広がっている。

団体名	中込商店会協同組合(佐久市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	事務局0267-62-5714	事業費	1,184,976円
ホームページ	http://nakagomi.jp/	支援金額	884,000円

健康オイルで地域活性化！「ひまわり油」「エゴマ油」特産品化事業

取組に至る背景・事業の目的

平成 26 年度から遊休荒廃地の解消、景観及び生活環境の維持を目的に、ひまわりの栽培を行い、「ひまわり油」を製造してきた。また、エゴマについても農業支援センターにおいて地域特産物として生産拡大及び「エゴマ油」の製造に取り組んできた。

過去 2 年間の取組において、栽培・加工品製造・販売の過程で様々な課題が出てきた。平成 28 年度はこれらの課題を克服しながら事業実施体制の確立を図る。

事業内容

遊休荒廃地の解消、特産品を開発するため、ひまわり、エゴマを栽培し、搾油した「ひまわり油」、「エゴマ油」の生産体制を確立し、商品化を図る。

1 事業推進会議の開催

東京農業大学、農業支援センター、直売所、地域おこし協力隊、生産者、長和町で事業推進に向けた検討会を開催した。

2 「ひまわり」「エゴマ」の栽培

住民有志の団体や個人が主体となり「ながわ特産カンパニー」を組織し、遊休荒廃地の解消及び景観作物として「ひまわり」を栽培した。

また、よだくぼ南部地区農業支援センターにおいて、特産物栽培促進事業としてエゴマの栽培を推奨し、「健康食品」としての「エゴマ」の栽培促進を図った。東京農業大学が主体となり、機能性雑穀栽培加工販売を実施する任意団体「長和町雑穀研究会」を組織した。

3 特産品の開発

エゴマは新たに直圧式搾油機を導入し、事業化に向けた生産体制を整備し健康オイルシリーズとして「ひまわり油」「エゴマ油」の商品化を図った。商品が町の特産品となるよう、パンフレットによる周知を図ったり、町の奨励品に認定申請するとともに、販売物産館「とびっ蔵」に加え、直売所及び町内小売店、町のネットショップと販路拡大を図った。また、搾油した油の販売だけでなく、提案型販売や様々な商品開発等販売戦略を検討した。



【健康オイルシリーズ
ひまわり油・エゴマ油】

事業効果

「エゴマ油」は直圧式搾油機の導入により良質な油が生産できるようになり、商品化を図ることができた。事業は3年目を迎え、様々な課題に対処しながら事業実施体制を整備することができた。事業実施にあたり、福祉団体を始め各団体と連携しながら推進することで雇用創出にもつながった。

また、(株)クボタと連携を図り、40 アールの遊休荒廃地が再生された。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

事業実施団体も組織され、本格的に事業が推進できる体制が確立された。住民の関心も高いので「ひまわり油」「エゴマ油」を町の特産品として積極的にPRし、需要を喚起するとともに、新たな産業の振興、地域活性化に資する事業として推進していく。

【選定のポイント】

地域住民と協働し、遊休荒廃地の解消及び景観作物として栽培している、ひまわりやエゴマから搾油し、健康オイルとして特産品化を図っている。商品の販売体制が整い、今後の事業の継続・発展が期待される。

団体名	長和町	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0 2 6 8 - 6 8 - 3 1 1 1	事業費	3, 6 4 3, 2 0 2 円
		支援金額	1, 5 8 0, 0 0 0 円

諏訪圏移住交流推進事業

取組に至る背景・事業の目的

移住する際に仕事や住まいを同一市町村内で確保できるとは限らない。また、日常の買物や通勤・通学、通院などでは市町村の枠を超えて人が行き来している。しかし、移住推進事業は市町村単位で展開されていて、提供される情報も当該市町村に限定される。移住者の立場に立つと、実際に住むことになる生活圏全体の情報が欲しい。

また、行政は立場上個別の不動産取引や就職に直接関与することはできない。不動産取引であれば不動産業者、就職であればハローワークや就職支援会社などの協力が不可欠となる。諏訪圏移住交流推進事業連絡会が目指すのは、移住推進事業での行政の枠を超えた広域連携と、民間企業や関連団体、移住者OBなどの参画による官民協働による移住推進事業の展開である。

事業内容

- 広域連携による情報発信
 - ・諏訪地域6市町村合同移住情報ポータルサイト
(信州でさがして諏訪で暮らす。)の運営管理
 - ・諏訪広域版プレゼン資料の作成および共同利用
 - ・ふるさと回帰支援センターへの登録、バナー広告
- 移住セミナー・体験ツアー等の開催
 - ・PR手提げ袋やセミナーツールの作成、共同配布等
 - ・諏訪圏合同移住セミナー・魅力体験セミナーの共同開催(4回)
 - ・諏訪地域移住下見バスハイク&交流会の開催(1回)
 - ・楽園信州移住セミナー(県主催)等への参加(7回)
 - ・移住者ネットワーク構築としての各種イベント実施(5回)
 - ・原村高原朝市に出店し移住促進PR(16回)



【諏訪圏合同移住セミナー&わーくわく交流会】

事業効果

- ・諏訪地域6市町村で移住推進活動の運営ノウハウが共有され、連携協力の機運が高まった。
- ・諏訪6市町村合同移住ポータルサイト(信州でさがして諏訪で暮らす)の閲覧数は、20人/日で当初目標を達成した。このHPは諏訪地域の移住情報の発信ツールとして機能している。
- ・宅建協会諏訪支部の協力もあり、不動産物件情報の迅速な提供が可能となった。
- ・移住希望者からの相談にワンストップで対応する移住相談窓口「諏訪圏移住相談センター」と連携することにより、セミナー等参加者に対して、より効果的な情報発信を行うことができた。
- ・移住者の地域への定着化支援のため、地元民と移住者を繋ぐ移住ネットワークを構築した。コンサートや登山ツアーなど多彩なイベントを開催することで、移住者と地元住民の交流が図られている。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

諏訪地域6市町村の連携協力による移住推進活動にあたっては、関係団体の合意形成に多くの時間とエネルギーが必要であった。地域発元気づくり支援金を活用し、3年間、広域連携による情報発信や移住セミナー・体験ツアー等を進めてきたが、知名度はまだ十分とはいえない。

次年度以降も「諏訪圏移住交流推進事業連絡会」をプラットフォームとして、参画している各種団体及び事業者の連携により諏訪地域の移住推進事業の強化拡充を図っていきたい。

【選定のポイント】

官民連携・広域連携による移住希望者のニーズに合った情報発信やイベント等を行うことにより、諏訪圏域への更なる移住促進や移住者と地域住民との交流が期待される。

団体名	諏訪圏移住交流推進事業連絡会(諏訪市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0266-57-0502	事業費	3,965,445円
ホームページ	http://www.suwa-life.jp/	支援金額	3,172,000円
メールアドレス	info@suwa-life.jp		

ともに育ち ともに生きる社会づくりを進める事業 (障がい者雇用の促進 共生社会理解推進 子育て支援 仲間づくり)

取組に至る背景・事業の目的

ともに育ち、ともに生きる社会づくりを目指し、7年前から活動を始め、子どもたちの成長に合わせた内容で取組を進めてきた。5名のメンバーで始めた活動が、50名以上の会員へと広がり、計画した活動への参加者も増えてきている。平成28年度は、共生社会の実現に向けて①企業の障がい理解の促進、②共生社会実現のための理解推進活動、③子育て支援・家庭支援を目的に、事業を計画し実施した。

事業内容

- 1 諏訪圏域の企業の見学、職場体験を実施した。また、地元企業にともそだちプラネットの活動、理念を理解していただくために、毎月発行しているともそだち通信と子どもたちが書いた習字と会員の絵を組み合わせた自作のカレンダーを配布した。
- 2 共生社会の実現のための活動として、2回の講演会と「ハッピードリームフェスティバル」でケッチャップマヨネーズさんをお招きしての講演&コンサートを開催した。また、障がいのある子もいない子も一緒に活動する活動として、バスハイキングのスマイルチャレンジ活動を年4回実施、カヌーサポーターの養成・体験教室を年2回実施した。
- 3 子育て講座を実施し、保護者の子育てを支援するとともに、保護者同士のつながりや助け合いの輪を広げる機会を提供した。



【下諏訪町いずみ湖でカヌー体験】

事業効果

- 1 様々な困難を抱える青少年が会社見学、職業体験を行うことで、企業の障がい理解の促進を図ることができた。
- 2 障がいの有無に関わらず、一人ひとりができることを考え、実践する機会を通じ、障がいを持つ人たちが、自分から積極的に参画できる社会づくりに踏み出す場を作ることができた。また、広く市民に呼びかけ、一緒に活動してもらうことで、共生社会を実感してもらうことができた。
- 3 子育て講座をきっかけに、困難さをもつ子どもたちの母親、父親の子育てのネットワークづくりができた。また、障がい支援の専門の先生に、直接悩んでいることを聞く機会を作ったことで、具体的な問題解決にもつながった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

放課後等デイサービス事業やタイムケア事業として発展させることができたが、制度化したことで規制されることも増え、制度の枠には入らないが困難さを抱えている子どもたちへの支援が難しくなっているという矛盾が出てきている。今後は自立を目的とした自立体験キャンプや、仲間作り合宿等にも取り組みたいが、バス代や宿泊施設代、サポーター経費をどのように捻出するかが課題。不登校や引きこもりの若者たちが増えている現状も踏まえ、福祉制度にはのりにくい若者たちも含めた、困難を抱える人たちの社会自立や就労の場づくり、社会参加のシステムづくりが必要である。広く関係機関や志をもつ人々と連携しながら共生社会づくりを目指し、困難さを抱える人たち自身が地域社会の担い手として力を発揮できるよう取組を進めたい。

【選定のポイント】

企業との連携により、障がいを抱える人たちが積極的に参画できる社会づくりの促進が期待される。

団体名	特定非営利活動法人 ともそだちプラネット (岡谷市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0266-78-7642	事業費	1,476,617円
メールアドレス	tomosodachi@po.32.lcv.ne.jp	支援金額	1,036,000円

女性が創る健康で心豊かな暮らし～薬草・絹を通じた女性の起業支援プロジェクト～

取組に至る背景・事業の目的

「足ることを知る人は、心穏やかであり、もったの思いを捨てると、心の豊かさを実感できる。物を活かし、人を活かし、健康で心豊かな暮らしを、自分たちで作り出していこう！」をスローガンとした「知足プロジェクト」を立ち上げ、①薬草の有効利用の促進②中古シルクの有効利用の促進③女性の発想で協働の形を創業に、という内容で活動を行った。



【シルク岡谷をイメージ】

事業内容

1) 女性起業家による各種研修会

- ・第1弾お片付講座 参加者 43名
- ・第2弾筆文字講座 参加者 40名
- ・第3弾つまみ細工講座 参加者 26名
- ・第4弾コミュニケーション講座 参加者 52名 **【薬草料理を味わう】**
- ・第5弾お片付けブラッシュアップ講座 参加者 42名

2) 各種専門活動

- ・第1回つまみ細工内部研修会、絹のリサイクル参加者 8名
- ・第2回知足カフェ、桑・クコレシピ①参加者 12名
- ・第3回知足カフェ、桑の手作りスイーツ②参加者 11名
- ・第4回つまみ細工ブラッシュアップ、古民家利用参加者 8名
- ・第5回真綿とり教室 シルク岡谷の伝統技術の復活参加者 10名

3) 関連事業

1. SNSの利用
2. 知足ポスター及び講座チラシ作成
3. 桑/クコの有効活用①桑の葉摘み②桑の葉甘酒試飲③桑炭の活用「吉祥桑炭消臭袋」製作④薬草レシピの考案⑤桑の葉の蒸留水を精製⑥クコの苗木配布
4. 中古シルクの有効利用①オリジナルブランド「タルヲシルク」・シルク端切れ利用・呉服店展示会出展②着物女子会
5. 研修視察事業
6. 地域通貨
7. 今年度のミーティング開催日 合計20回の開催

【作品と共に笑顔で記念撮影】



事業効果

家庭の中古シルクを持ち寄り作品として制作し、さらにはシルクリメイクのオリジナルブランド「タルヲシルク」と名付け今後の活動のベースができた。これを商品として販売することにより、「手に職をもつ」の言葉どおり、今後起業に結びつくことが期待される。

薬草や絹の「モノ」や、集まったメンバーの「人」を活かす活動を行うことにより、賛同して集まったメンバーの人的交流や協働をきっかけに、人との関わりの中から「心の豊かさ」を感じることの重要性を認識することができた。活躍中の女性起業家の講師を迎えた講座には広く一般市民が参加し、「健康で心豊か」な内容に関心を持ってもらうことができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

女性の本格的な起業のハードルは非常に高いが、自身の技能、特技を見つけて研鑽し伸ばしていくことにより、本格的な起業以外の形でも能力を活かす場があることを当プロジェクトの活動が示唆している。

今後「知足カフェ」として、薬草の調理実習、薬草茶を飲みながらのメンバーの特技を活かしたミニ講座の企画、中古シルクを用いたリメイク品(タルヲシルクブランド)の定期的な作品作り、サードプレイスとして安心できる居場所・仲間と交流できる場・個人の能力を発揮できる場を作りたい。さらに、「知足(足るを知る)」を特に実践できる、不用品のフリマ・交換会など、暮らしの中で不要になった物を活かしていく活動に繋げていきたい。

【選定のポイント】

本事業により生まれた人的交流と、起業に向けた継続的な取組が、女性が地域社会で活躍できる地域社会形成の契機となることが期待される。

団体名	岡谷商工会議所(岡谷市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	長野県岡谷市郷田1-4-11 0266-23-2345	事業費	1,008,310円
ホームページ	http://www.okayacci.or.jp/	支援金額	800,000円

地域の人材が地域で学び地域で活躍する風土醸成事業

取組に至る背景・事業の目的

上伊那地域においても、この数年における人口減は加速度的に進み、将来に向けて大きな不安材料となっている。本事業は、そのような流れに少しでも歯止めをかけ、また上伊那全体の豊かさ向上を図るため、将来地域を担う人材育成を軸として以下の活動に取り組んだ。

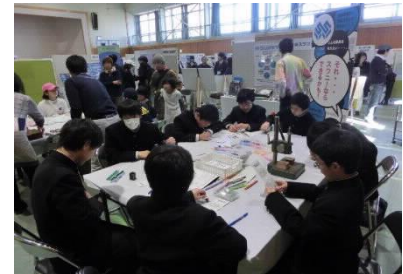
- ・小学生から企業人材までチェーンのようにつながった学びの場を形成する。
- ・県南信工科短期大学校（以下南信工科短大）を核に、地域の人材が地域で学ぶ環境づくりを促進する。
- ・地域の産業、ものづくり、科学技術の素晴らしさを体感し、若者の将来の夢が形成される場を設ける。
- ・企業、教育機関、行政、商工支援団体、そして地域住民とのコミュニケーションと協働の場をつくり、地域の人材が地域で学び地域で活躍する風土の醸成を目指す。

事業内容

- ・【企業人材育成研修】企業の発展を支える社員のスキルアップ研修を通じ、地域の若い人材を受け入れる企業の底力アップを図った。
- ・【環境出前授業】小学校の授業を支援する形で企業の社員が先生となり、先生の話やクイズ、実験を通して、地球全体や地域の環境問題・新しいエネルギー問題などを学んだ。
- ・【子供科学工作教室】学校の授業とは別に企業の社員や高校生などが指導者となり工作キットの製作や、実験を通してものづくりの楽しさや大切さを学んだ。
- ・【人材ふれあいフェア】信工科短大のキャンパスにおいて、ファミリーや中学、高校、南信工科短大、企業の人たちがお互いの活動を知り合い、ものづくりの楽しさを体感すると共に、地域社会への意識高揚を図る地域住民参加の交流フェアを実施した。



【環境出前授業での様子】



【人材ふれあいフェアでの体験教室】

事業効果

- ・【企業人材育成研修】経営改善、品質改善、工程改善、技術などを座学と実技など通じて学び、また、いずれの講座にも一貫して通じる主題「自分を見つめ直す」ことにより、人材の受け皿となる地域企業の経営体質改善に寄与した。
- ・【環境出前授業】【子供科学工作教室】実技や講義により楽しみながら環境やエネルギーのこと、地域のこと、ものづくりのことを学べた。素直に明るくものづくりや地球の深刻な問題を考える子供達に触れ、将来の可能性を感じる事が出来た。継続し繰り返し繰り返し取り組む必要性を感じた。
- ・【人材ふれあいフェア】工業系に限らず10校もの高校・中学と、企業、団体など計45のブースや5コースの体験教室で交流が図れた。高校生の活動の充実、中学生やファミリーの地域企業の技術や取り組みに対する驚きと発見、体験教室での真剣なものづくりなど、地域の人たちがお互いのことをより深く知り合えた。また、南信工科短大をよく知っていただく貴重な機会となった。
- ・全体の活動を通じて、共通の課題に地域が一丸となって取り組むことの重要性を、各方面の方々に感じていただいたことで、他の様々な活動にも少なからず良い影響を与えられたと感じる。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

企業人材育成研修は、更にテーマをリサーチして充実した講座を開催すること、環境出前授業はより多くの小学校に波及させること、子供科学工作教室は会場や教材の選択などに課題がある。人材ふれあいフェアは未知の取り組みであり反省も多かったが開催できたこと、中でも南信工科短大と南信工科短大振興会の連携、学生の参画は大きな収穫であった。今後は、良いところは伸ばし反省点は改善していく。また様々な分野の人たちが一緒になって企画運営する体制を構築し、地域に密着した長く継続できるイベントとして定着させ、事業名通り風土のレベルにまで高めていきたい。

【選定のポイント】

ものづくり産業が盛んな上伊那地域で管内の学生が地域のものづくりについての学び理解を深めるために、小学校高学年を対象とした総合学習の一環として環境出前授業を実施や、管内の企業や行政機関等45団体が連携し、高校生と南信工科短大生が企業と交流する場を設けるなど、上伊那地域の若者人材の育成に寄与した。

団体名	(公財)上伊那産業振興会 (伊那市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	事務局長 伊藤 憲明 0265-776-5661	事業費	3,890,352円
メールアドレス	keisei3@ina.janis.or.jp	支援金額	2,508,000円
ホームページ	http://www.ina.janis.or.jp/~keisei/		

飯田地域ブランド開発事業「飯田丘のまちバル」

取組に至る背景・事業の目的

個性的で魅力ある飲食店が増えている飯田の中心市街地でにぎわいを創出し、商業振興に繋げるため、まちなかを回遊してもらう「飯田丘のまちバル」を実施した。飯田市中心市街地のブランド力、飲食店のブランド力を高めるため、有効な取組と考えた。

事業内容

「飯田丘のまちバル」の実施

参加店舗1軒につき、ワンドリンク、ワンフードのセットをバルメニューとして提供し、次々にお店をはしごしてもらい食べ歩き、飲み歩きのイベントを行った。

開催日時 平成28年8月21日 12時～24時

金額 前売りチケット1冊3,500円（5枚綴り）



事業効果

- ・チケット販売枚数1,165冊と1枚。
- ・各店のリピーターが増え、恒常的な商業振興に繋がった。
- ・中心市街地の飲食店の意見交換、交流の場を設けることが出来た。



【飯田丘のまちバルの様子】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

<工夫した点>

1 バルタクシー

長野県タクシー協会飯田下伊那支部の協力で、当日に限りチケットでタクシーを利用できるようにした。

2 あとバル

当日イベント参加できなかった方に対し、後日参加店舗でチケットを利用できるようにした。

3 同時イベントの開催

参加店舗において、音楽愛好家による生演奏、人形劇やダンスなどのパフォーマンスを行った。また、バルに着物（浴衣）で参加された方にお酒やジュースをサービスした。

4 実行委員会組織

参加店舗46店の店主で実行委員会を組織したことで、継続的にバルを開催する体制が出来た。

5 昼からの開催

昼間からバルを開催し、女性や家族連れにも多数参加してもらった。

6 地産地消

料理にはできる限り地元食材を使用した。

【選定のポイント】

中心市街地46店が実行委員会を組織し、2年の準備期間を経て開催。延べ1,000人以上が参加するイベントとなった。地元食材を利用し、「まちバル」に合わせた同時イベントを実施するほか、女性や家族向けに昼から開催するなど事業を工夫した点を評価。

団体名 飯田市中心市街地活性化協会(飯田市)
連絡先 0265-52-1715
ホームページ <http://okabal.xyz>
メールアドレス shigaichi@city.iida.nagano.jp

事業タイプ ソフト事業
事業費 5,047千円
支援金額 890千円

高校生をターゲットにした地域産業の魅力向上及び企業情報発信事業

取組に至る背景・事業の目的

飯田下伊那地域は4年制大学がないことから、高校生が地域外へ進学している。近年では地元高校を卒業した生徒（約1,500人）のうち約7割が地域外へ流出し、そのうち地元への回帰率が約4割に留まっている。

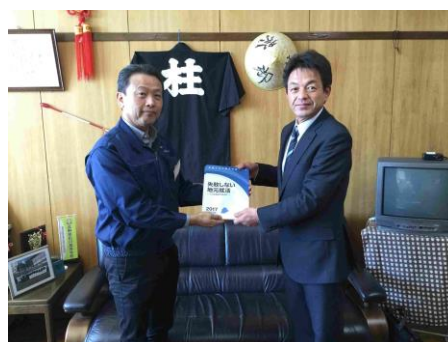
こうした状況のなか、生徒やその保護者に地域産業や地域企業の情報を発信し、知ってもらうことで、当地域への回帰率向上を図り、当地域を牽引する産業づくりを担う人材の誘導に向け、地元企業会が一丸となって取り組んだ。



【講演会の様子】

事業内容

- リクルート関係者による講演会
大都市圏外における新卒・第二新卒・中途採用についてリクルート講演会を開催
 - ・期 日：9月13日（火）
 - ・会 場：（公財）南信州・飯田産業センター
 - ・参加者：56名
- 地域産業や地域内企業の冊子の作成
企業情報、学校メッセージ、飯田下伊那の情報を掲載
 - ・サイズ：A4版、51ページ、1,600部
 - ・配布先：飯田下伊那の高校2年生全員（平成29年度高校新3年生1,565名）、飯田市結いターンキャリアデザイン室



【松川高校へ企業冊子配布】

事業効果

- ・講演を聞いてインターンシップの重要性を理解し、各社受け入れを検討していくことになった。
- ・平成31年度学卒者の地元回帰率を、対平成26年度比5%増となることを目標にしているため、効果は未定。高校卒業者の地元就職率については、平成29年度末に結果が出る予定。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・人材を獲得するためのノウハウがこれまで不足していたため、専門家による講演会を開催し、現状の問題点や企業PR方法、具体的な活動を学び、その結果を受けて企業紹介冊子を作成した。
- ・翌年度以降も最低5年間は企業紹介冊子の作成を継続し、配布先を大学、行政機関、公共交通機関へ広げていく。また冊子を活用した事業（高校との連携、インターンシップ、展示会等）を行っていく。

【選定のポイント】

地域全体の課題であるUターン就職による定住の推進に工業会が取り組んだ。講演で学んだプロモーション、インターンシップの導入、継続的な冊子発行等により、今後の人材回帰に期待ができる。

団体名：飯田精密機械工業会（飯田市） 連絡先：0265-22-5644	事業タイプ 事業費 支援金額	ソフト事業 1,046千円 749千円
--	----------------------	---------------------------

開田高原ヘルスツーリズム推進事業

取組に至る背景・事業の目的

開田高原ヘルスツーリズム推進協議会は、木曾町が推進する「木曾町ヘルシータウン構想 21」によって誕生した組織であり、民間と町が協働して特色あるヘルスツーリズム構築に向けた取組を行っている。

準高地である開田高原は、酸素飽和度が平地に比べて少なく、少しの運動でも大きな効果となり得るため、健康運動に適している土地柄である。精神的・肉体的に優れた健康効果があることが立証されており、清浄な空気と特色ある地域資源を持つことから、独自性の強いヘルスツーリズムを構築することが可能である。

事業内容

- レンタル用自転車及び安全対策用品等の購入
- サイクリングマップ作成、チラシ作製
- ウォーキング備品等の購入
- 木曾馬の借用

地域資源である木曾馬を活用した「木曾馬と歩く健康ウォーキング」や、「高原サイクリング」などを実施し、ヘルスツーリズムプログラムのメニュー構築と受け入れ基盤の強化を行った。



【木曾馬と歩く健康ウォーキングの様子】

事業効果

- 自転車を購入したことでサイクリングプログラムの実施が可能になり、新たな観光商品を造成することができた。
- ヘルスツーリズムの参加者はあるが、地域全体で見ると観光客の増加にまでは至っていない。ただし、新しい観光商品であるため、新たな客層の掘り起こしには効果がある。
- ウォーキングプログラムは約5時間を設定しており、滞在時間の増加に効果があった。
- 参加者の健康意識の高揚や実際に運動することで心身の健康増進につながった。

<参加者数>

- ・ステイ&ウォーク
 - 木曾馬と歩く健康ウォーキング+サイクリング 延べ 46 名
- ・木曾馬と歩く健康ウォーキング 延べ 43 名
- ・高原サイクリングで健康づくり 延べ 38 名

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

体験プログラムは外部有識者監修の下に造成されており、実際の参加者からは好評を得ることができた。今後さらにプログラムを磨き上げ、広報周知に力を入れることで、観光誘客の促進を図っていく。併せて、住民及び観光客の健康増進にも取り組み、ヘルシータウン・木曾町として知名度向上を図りたい。

【選定のポイント】
ヘルスツーリズム事業の取組は先駆性がありモデル事業として評価できる。購入機材を使用した観光商品化も行っており、今後の継続と発展にも期待できる。

団体名	木曾町	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0264-42-3331 (木曾町役場 開田支所)	事業費	1,607,079円
		支援金額	1,196,000円

地元産そば需要拡大プロジェクト 事業

取組に至る背景・事業の目的

木曾産そばの品質向上と安定供給を図るため、そば生産者とそば店等が連携した組織を平成 26 年度に設立した。

事業目的は、そば店が求める風味豊かな木曾産そばの生産量の確保と品質の向上を図るとともに、木曾産そばのさらなる顧客増加、需要拡大につなげていくこととしている。

また、そばとの相性が良く、かつ健康志向等によりブームとなっている「すんき」に着目し、木曾ならではの「すんきそば」として、関係団体と連携したPR活動を推進していく。

事業内容

＜木曾産そば生産性及び品質向上対策＞

- 播種前栽培講習会の開催
 - ・そばの反収安定のための技術対策
 - ・土壌診断に基づく適正施肥による収量向上について
 - ・排水対策技術について（ほ場講習）
- 先進地視察研修の実施
- 収穫・調製研修会

＜木曾産そばのPR活動＞

- 協議会加盟そば店を対象とするスタンプラリーの開催
- のぼり旗の作成と配付
- 各地域の新そば祭り等のイベントと連携したPR活動
- 銀座NAGANOを活用した木曾のそばのPR活動(対象外事業)
- そば粉を活用した新たな郷土料理の開発(対象外事業)



【スタンプラリー賞品抽選会】

事業効果

項目	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
玄そばの高品質化	3 等以上 53% 規格外 47%	1 等 31% 2 等 68% 規格外 1%	1 等 45.3% 2 等 54.7% 規格外 0%
そば生産量	82 t	88 t	106 t

スタンプラリーに 455 名の応募があり、木曾のそばへの関心、知名度等のアンケートを同時に行うことができ、今後の事業展開の参考資料となった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

地域ブランドとして定着してきた「木曾産そば」の更なる認知度向上を図るとともに、そばの品質安定性を確保するための活動を継続的に取り組む必要がある。

そば単体のメニューだけでなく、地域ブランドの「すんき」等と組み合わせたメニューの提供等について、そば店・製麺業とそば生産者組織が一体となって取り組んでいく。

【選定のポイント】

木曾産そばの生産量増加、品質向上に官民一体となって取組み、成果をあげている。また、郡内のそば店における木曾産そばの利用促進やPR活動に取り組む、地消地産、地域活性化に貢献した。

団体名 木曾のそば推進協議会（南木曾町） 連絡先 0264-25-2515 （長野県商工会連合会木曾支部）	事業タイプ ソフト事業 事業費 612,093円 支援金額 489,000円
---	--

草木染めによる地域づくり事業

取組に至る背景・事業の目的

大町市内を流れる農具川の岸には、農具川環境美化委員会がアヤマとアザレアを植え、大町の花の名所となっている。見ごろを過ぎた花や葉の有効活用に着目し、花びら染めを始めたのがきっかけとなり、ストールやハンカチなどに地元産の草木花の染色をし、商品開発をしてきた。その研究を更に進め、環境にやさしく、地域資源を活かし、消費者のニーズにあった商品を開発し、ブランド化を目指す。また、主にシニア層の活躍の場の創出にもつなげていく。

事業内容

- 草木染講習会の開催
信州松崎和紙工業の伝統の紙すきの技術と草木染の天然の色合いを組み合わせ、はがきやコースターなどの商品化を目指して、講習会を開催した。
- 展示販売会
草木染商品は、大町市中山高原、市内飲食店等5か所で展示販売会を開催した。
- 草木染体験学習会
市内保育園や小中学校で草木染体験を実施し、延べ100名の児童・生徒が参加した。
観光客への体験プログラムとして草木染体験を提供できるよう、白馬村での体験会も実施した。



【花びら染め松崎和紙の木崎湖灯籠】

事業効果

地元の伝統工芸である松崎和紙とのコラボレーションにより、木崎湖灯籠流しの灯籠制作、紙すき体験等、特産品づくりのための研究を重ねることができた。

展示販売会には100名の方が訪れ、商品のブランド名を「いろあい」とし、作成したロゴを記載したリーフレットを商品に添付したことで、地域特産品としてのPRを強化することができた。

講習会、体験学習会、展示販売会には、地域のシニア層が参加し、高齢者の活躍の場を提供することができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今回初めて、外国人観光客が多く訪れる白馬村で、スキー以外のものづくり体験の場の提供につながるよう草木染講習会を開催した。今後もブルーベリーや紫米など地域ならではの素材を活かし、訪れる人に通常の旅行では味わえない、人とのふれあいも味わえるようなプログラムを提供していきたい。また染色商品の研究を更に進め、商品のブランド化を目指し、シニア層の仕事づくりにつなげていきたい。

【選定のポイント】
アヤマや陸わさび、ウドなど、様々な地元産の草木を使い、地元の伝統工芸である松崎和紙を染色した商品を開発するなど、地域特産品としての研究が進められた。商品は菜の花まつりなどのイベントでの販売の他、大町市内の飲食店や菓子店に常設の販売場所が置かれ、特長ある地場染物としての特産品化が期待できる。

団体名	信濃大町草木染め研究会(大町市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	大町市大町3302	事業費	576,567円
	NPO 地域づくり工房内	支援金額	420,000円

千曲市森のあんず等加工品開発と販売を通じた「あんずの里」振興事業

取組に至る背景・事業の目的

地元の宝であるあんずをもっと広めたい、そして後世へとつないでいくにはと思案し、ご近所で子育てが一段落した女性の仲間達で工房アプリコを立ち上げ、加工所を開設していこうというスタイルに辿りついた。この事業を通してシニア世代が頑張ることであんず生産への意欲向上、地域住民とのコミュニケーションの輪を広げ、あんずの保護・振興につなげていく。

事業内容

- 「菓子製造業」の許可を取得し、JA ながの森店の遊休施設を賃借し、改修工事を行い加工所を整備した。加工所内に「減圧平衡加熱乾燥機」を導入し、地元産のあんずのみを使用してドライあんずをはじめ、ドライフルーツ、地元野菜の規格外品を乾燥して乾燥野菜にする等、料理具材の開発を行った。
- 県の「しあわせ信州食品開発センター」の指導のもと、「缶詰又は瓶詰食品の製造業」の許可を取得した。センターの施設を使用し、近代的加工機器を使用することにより、あんずジャムやシロップ漬けを試作加工・販売し、今後の活動の基礎作りを行った。



【あんず製品の加工風景】

事業効果

- 「減圧平衡加熱乾燥機」を購入し、あんず以外の野菜・果物を乾燥加工し、あんず農家の新たなビジネスモデルの構築を図った。
- 地元の生産者があんず・果物・野菜を搬入する際にコミュニケーションの輪が広がり、この活動に対する協力体制が生まれてきた。
- 「あんずの里振興会」に入会し、積極的に関わることであんずの保護・振興の活動に想像以上の影響を与え、千曲市森地区の「あんずの苗木 1,000 本植えようプロジェクト」スタートの原動力となった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

乾燥機をフル稼働し、より良い製品の加工・販売を目指す。また、地域の活性化につながるあんずの木の保護・育成に少しでも役立つよう、摘果作業等の労働を通し、「あんずの里」に貢献し、次世代に引き継げるよう、シニア世代の頑張りを見せていく。

各種商談会へ参加し、販路拡大を図り、市内の食品加工業者の OEM の受託をすすめ、共に地域活性化の一端を担う努力を続ける。

【選定のポイント】
 多くの機関の指導のもと開発したドライあんずなどのあんず加工品が、千曲市のふるさと納税の返礼品に採用されるなど高い評価を得ている。原料供給には、地元農家の協力体制が進み、生産者同士のコミュニケーションはもとより地域の人たちで助け合う協力体制が生まれてきた。
 また、シニア女性の頑張りにより、地元地区の男性陣も感化され、あんず振興の新たなプロジェクト「あんずの苗木 1,000 本植えようプロジェクト」に積極的に関わる等、あんずの保護・振興を地域で一体となって取り組む気運が醸成された。

団体名	工房アプリコ（千曲市）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	026-214-5058	事業費	11,092,339円
		支援金額	5,760,000円

黒姫・妙高山麓大学駅伝大会

取組に至る背景・事業の目的

信濃町と新潟県妙高市は、グリーンシーズンには、箱根駅伝の出場を目指す大学駅伝部や実業団チームの合宿地として長年愛され、利用され続けており、また国際リゾート観光地として歴史的・経済的に交流が盛んで、県を越えて連携している地域である。この地で駅伝大会を行うことにより誘客宣伝だけでなく、恵まれた自然環境を生かした合宿誘致の促進、スポーツ振興及び産業振興を図ることができ、地域活性化にもつなげることができる。

事業内

信濃町と新潟県妙高市は、広域連携の強化及び更なる合宿誘致を推進するため、地域の関係者と連携し第1回黒姫・妙高山麓大学駅伝大会を開催した。

駒澤大学等の首都圏の大学を始め全国から23チームが出場し、無事大会を開催することができた。多くの駅伝ファン及び地域住民が沿道で声援を送るなど大きな盛り上がりを見せた。

また、大会後に行われた陸上教室では、参加選手らが地域の子どもたちと交流しながら陸上指導を行った。



【黒姫・妙高山麓駅伝大会】
【スタートの様子】

事業効

大会を開催したことにより、想定の倍以上に当たる23チームが参加するなど、合宿地としての魅力を全国に発信することができた。

両市町の関係者と連携が取れたことにより、合宿誘致の活動が面的な活動として広がりを見せるきっかけづくりとなった。

全国紙及び県内報道機関に取り上げられたことにより、合宿地としてのPRにつながった。

また、駅伝大会終了後に陸上教室を開催したことにより、一流選手との交流を通して子どもたちへのスポーツ振興を図ることができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

初の駅伝大会の開催によって大学による合宿地としての知名度やスポーツ合宿に対する地元の期待値が高まった。今後は、コースの見直しを図り大会の継続を進め、大会事業を軸にスポーツ合宿誘致の推進及び地域スポーツの振興を見据えた活動を実施していく。また、自主財源の確保を図りながら、持続的な大会運営ができるよう地域関係者と連携を密にしていく。

【選定のポイント】

大学駅伝大会を開催することで広域での地域間連携が図られ、夏合宿誘致やスポーツ振興、地域活性化につながった。多くの大学関係者や観戦者が来町し、合宿地としての魅力を全国に発信した。

団体名	黒姫・妙高山麓大学駅伝大会実行委員会 (信濃町)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	026-255-2188	事業費	6,022,463円
		支援金額	2,000,000円

女性・若者の雇用促進及び就業支援、中野市の文化振興のためのシェアスペースの整備事業

取組に至る背景・事業の目的

「田園自由都市で暮らし、想像力を育み、ものづくりを楽しむ。」をコンセプトに中野市を起点として文化芸術活動の情報を発信していたが、これまで中野市にはイベントをやりたくなるような場所がなかった。また、子育てしながら働ける環境もなかったため、これらの課題を解決し、かつ文化芸術を楽しむひとの交流の場を創出するため、中心市街地に拠点を整備した。

事業内容

1. 女性や若者のためのコワーキングスペースづくり
地域の方々が改修作業に参加し、共に作り上げる喜びを共有した。
(改修作業：8月～12月、利用開始：11月～)
(参加者 延べ100人)
2. 世代を超えた交流ができるシェアスペースづくり
本を通じて世代を超えた交流ができる場所をつくった。子育て支援事業や、若手クリエイター・女性のスキルを生かしたイベントを実施している。
(本棚づくり・選書など：12月～1月)
(利用者 延べ250人)



【改修作業の様子】

事業効果

- 女性起業家や若手クリエイター、就職活動中の女性のスキルを生かしたワークショップ・イベントを開催した。
- イベント開催日は、通常より最大20%増の商店街への来訪者があった。
- 地元企業から市民参加型ワークショップによる壁画制作のコーディネートの依頼があり、仕事の幅が広がった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今後も引き続き、地元クリエイターと連携した自主企画や、文化芸術振興に貢献できる企画を応援するなど、地域全体の振興につなげる取り組みを行う。また、中野市やその近隣で子育てする女性が、より輝けるような取り組みを企画運営し、応援していく。

【選定のポイント】

シェアスペースを整備しイベントを多く実施することにより、当初の目的の子育て世代だけではなく高校生や「中野市若者会議」とも繋がり幅広く活動することができた。また集客効果が波及し、周辺の商店街の活性化にも貢献している。

団体名	結文舎ワークスラボ (中野市)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	中野市中央2-1-35	事業費	2,710,186円
	水橋ビル3階	支援金額	1,761,000円
	080-1188-3625		

地域魅力再発見「より見知！！探健ウォーキング」プロジェクト

取組に至る背景・事業の目的

昨今の健康意識の高まりからウォーキングを楽しむ方が増えており、正しい姿勢や歩き方についての知識を身につけることでトラブルのない健康的ウォーキングの普及と、佐久市が平成 28 年 10 月にオープンした「佐久市うすだ健康活動サポートセンター」を起点に、まちの商業施設や文化施設等を紹介しながらのウォーキングイベントを開催し、臼田地域を住環境の良い街としてモデル的に発信し、交流のある健康元気なまちづくりを進める。

事業内容

- ウォーキングすると自然に臼田地域を見て知ることができる
10 コースを手作りマップで紹介し、その中から 3 コースを選びウォーキングイベントを開催した。
10 月 10 日のイベント当日は、うすだ健康活動サポートセンターをスタートし、臼田の町を寄り道しながら、より見て知る（より見知）ことができ、健康を探求（探健）できる様々なコースを 135 名の参加者が楽しんだ。
また、臼田地区の特産であるプルーンでカロリーを換算できるカロリー消費ブックを作成し、参加者に配布した。



【出発前の様子】

事業効果

- ウォーキング 参加者（135 名）
正しい姿勢や歩き方についての知識と技能を身につけることでトラブルのない健康的ウォーキングを身につけることが出来た。住み慣れた町の中で新たな発見ができ、さらに住民の交流が生まれた。
- 健康講座 参加者（80 名）
歩行能力が低下しても、実践可能な運動方法を身につけることができた。それにより、健康に対する知識を高めることができた。
- より見知!!マルシェ 参加者（300 名）
食べる人や使う人の体や心を思いやって手作りした作品と作り手の想いが購入者につながることで、地域住民の温かい交流を経験し、人の出会いや丁寧な暮らし、健康への意識が広がった

工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

地域住民のつながりや交流の再構築・地域の活性化等、健康・元気なまちづくりに寄与していく。
地域の商業施設、産業、地域文化施設の紹介を絡めたウォーキングコースの設定は珍しく、地域の交流促進、活性化にも寄与すると考える。マップの作成は、今後の佐久市健康活動サポートセンターの運営にも利用でき、まちづくりの紹介や、移住者への支援にも利用していこうと考えている。

【選定のポイント】

臼田健康活動サポートセンターを起点とし、町の見所を盛り込んだ 3 つのウォーキングコースについてマップを作成し、それをもとにウォーキングイベントを開催。大勢の参加者が正しい姿勢や歩き方の講習を受けた。

健康活動の場となったことに加え、住み慣れた町の中を寄り道しながら歩き、地域の新たな発掘に繋がる機会となった。

団体名	特定非営利活動法人うすだ美図（佐久市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	090-8723-4870	事業費	2,456,190円
		支援金額	1,842,000円

美ヶ原高原タイムラプス事業

取組に至る背景・事業の目的

美ヶ原高原及び周辺地域の観光振興を目的とし、上田市、長和町と観光事業者がタッグを組んで観光振興、地域発展に取り組む。

近年流行の「タイムラプス」に着目し、美ヶ原高原の大自然や星空などを活かしたワークショップやコンテスト、写真展等を開催し、「タイムラプスの聖地」として広く周知されるよう取り組む。

事業内容

美ヶ原高原を「タイムラプスの聖地」としてPRするため、ワークショップや星空観察会、展覧会、コンテストを実施した。

- 星空タイムラプスワークショップの開催
タイムラプスムービーに精通しているプロカメラマンによる2泊3日のワークショップを開催した。
- タイムラプスムービーコンテストの開催
美ヶ原で撮影されたタイムラプス動画のコンテストを開催し、作品をSNS上にアップしてもらうことで多くの人に視聴してもらうことができた。
- 星景色写真展「美ヶ原の宙（そら）」の開催
ワークショップ参加者と講師の作品を道の駅に展示し、観光客に美ヶ原の「星空」をPRした。
- 地元小学生向け星空観望会の開催
望遠鏡メーカーに依頼し、小学生向け星空観望会を開催した。
- イベント出店によるPR
長和町のイベントにブースを開設し、アウトドア愛好家向けにPRを行った。
- タイムラプス案内人の育成
タイムラプスの助言、案内ができるよう地元スタッフの育成に取り組み、現在ワークショップで知識を習得している。
- タイムラプス公式テキストの作成
ワークショップで使用するほか、ワークショップに参加できない人の知識習得に活用する。



【ワークショップ開催】

事業効果

ワークショップやコンテストの開催が話題となり、TVや天文誌、旅行雑誌などで「星のきれいなスポット」として多く取り上げられるようになった。「星空」を目当てに高原の宿泊者数や施設利用者数が伸び、前年比10%程度の増となった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

ワークショップやコンテストなどを開催したことで「星のきれいなスポット」としての知名度が高まったので、ワークショップの開催を継続するほか、「星空観望イベント」を立ち上げ、「星空」を目玉とした観光振興及び地域の発展を目指す。

【選定のポイント】

タイムラプスを新たな観光PRツールとして活用しており、モデル的で発展性のある事業である。地域住民に観光資源を再認識してもらうとともに、広域で連携し観光振興及び地域振興に取り組んでおり、事業の継続・発展が期待される。

団体名	美ヶ原高原タイムラプス実行委員会 (上田市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	美ヶ原高原美術館内	事業費	2,612,900円
		支援金額	1,840,000円

相撲部屋夏合宿開催事業

取組に至る背景・事業の目的

平谷村の「ひまわりの湯」に大相撲峰崎部屋の力士が遊びに来てくれたことが縁で、夏合宿を誘致することになった。平谷村の気候を生かした相撲部屋夏合宿が行われることによって、力士の皆さんと地域住民との交流が生まれ、それが地域の活力となり、同時に村の滞在型観光の推進になることを目指した。

事業内容

合宿日程 平成 28 年 7 月 30 日～8 月 11 日
土俵場所 村内ゲートボール場

- 1 練習場所整備
 - (1) 土俵作り 6 月 19 日～20 日 参加者 100 人
 - (2) 土俵開き 7 月 29 日 参加者 100 人
- 2 村民・地域交流事業
 - (1) 子どもふれあいデー 8 月 3 日
村内子ども参加者 30 人
 - (2) ちゃんこ交流会付き子ども相撲教室 8 月 7 日
村内外子ども参加 26 人
 - (3) 村民参加「ちゃんこ」交流会 7 月 30 日ほか 4 日
5 日間合計参加者 151 人



【 子ども相撲教室の様子 】

事業効果

- ・相撲部屋と地域住民の交流が行われ、地域の活力になった。
- ・平谷村「ひまわりの湯」周辺の観光客が増加した。対前年比 15%増
- ・珍しいイベントとして各種新聞やテレビに多数取り上げられ、村の宣伝になった。
- ・イベントによって愛知、静岡方面の観光客だけでなく、南信州近隣や関東方面からの観光客も訪れ、村全体が盛り上がった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 1 工夫した点
 - ・南信州地域の役所、飲食店等へポスター、チラシを配布し、のぼり旗を設置した。
- 2 今後の取組
 - ・翌年度以降も継続し、地域住民一体となって企画、実施していく。
 - ・稽古見学に来た相撲ファンに、平谷村のファンになって帰ってもらう。

【選定のポイント】
約 100 名の参加者により相撲練習場を整備し、相撲部屋の夏合宿を誘致した。ちゃんこ交流会や子ども相撲教室を開催し、地域内外から多くの参加者を集め、滞在型観光の推進に寄与した。

団体名	平谷村観光協会(平谷村)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0 2 6 5 - 4 8 - 2 2 1 1	事業費	3, 3 0 4 千円
		支援金額	2, 4 4 0 千円

社会復帰・起業支援+自分磨き・家庭生活充実応援事業

取組に至る背景・事業の目的

現代の子育て中のママは、不安や悩みをひとりで抱えていたり、自信を無くしていることもあることから、ひとりでも多くのママが夢を語り、輝き、自立することを応援するため、子育て仲間の女性6人が中心に団体を設立した。

事業内容

ポータルサイトを立ち上げ、子育て中のママに役立つ情報発信と、セミナーや妄想会議（夢を語る会議）などのリアルなコミュニティの場を設けた。

ポータルサイトグランドオープンイベントでは、堤香苗氏による働き方の講演会と妄想会議を開き、103名が参加した。

ママのための文化祭では、企画・運営する人から来場者まで多くのママが関わり、400名（子ども含む）が参加した。

ママの起業や社会復帰に役立つセミナーを10回開催した。



【ポータルサイトグランドオープンイベントの様子】

事業効果

ポータルサイトや子育て月刊マガジン（monami）にイベント記事を掲載したところ、それを見て参加したという声がかかれた。

また、ポータルサイトグランドオープンイベントの100人妄想会議（夢を語る会議）では、ママが、普段語れない夢を楽しそうに語っている姿が印象的だった。

文化祭では、出店だけではなく、普段の活動（親子ピクス、歌、ベリーダンス）の発表の場を設けることができた。

これらの活動をきっかけに「ゆめママキッチン」（レストラン）の話につながり、3月末にオープンとなった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

「ゆめママキッチン」（レストラン）という場ができたので、この場からママのつながりづくりや、ママに役立つセミナーなどを開催していきたい。

主催者が主導するというよりも、長野中のママが主体となり、より多くのつながりがこの活動から生まれ、輝くママが増えるように楽しく活動をしていきたい。

【選定のポイント】
子育て中の女性向けのポータルサイトを立ち上げ、それを見てセミナーに参加した多くのママが夢を語り、さらにそれをきっかけにママが働く場所としてレストランをオープンすることができた。子育て中の女性の起業や社会復帰の場づくりにつながった。

団体名	ゆめサポママ@ながの（長野市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	080-2061-9009	事業費	1,716,316円
		支援金額	1,273,000円

あつまれむらびとプロジェクト

取組に至る背景・事業の目的

人口が減少し人材が不足する中、地域が抱える課題を解決する力が弱まっている。そこで、持続可能な地域社会を構築するため、木島平村内外から地域づくりに関心を持つ「むらびと」を集め、村総合計画策定にかかるオブザーバーとなり、実践的に課題解決を目指す集団として活動している。

事業内容

- 村内の空き店舗を交流拠点とし、月1回サロン活動を実施するため、ホームページを開設した。
- 生涯学習講座や学習サークルを開設・運営するなど、様々な地域資源に着目したイベントを企画・開催した。



【ワークショップの様子】

事業効果

- 情報発信セミナー
開催回数：2回、参加者：延べ40名
- 「木島平の日本酒をたしなむ会」
開催回数：2回、参加者：延べ102名
- 婚活イベントの企画・運営
参加者：38名
- 村資源を活用した商品開発研究、ジビエ料理試食会等

工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

拠点となる空き店舗をリノベーションするためクラウドファンディングを実施し、村内外に取組みを情報発信していく。また、現在は若者の交流の場となっているが、今後は孤立しがちな地域の高齢者の昼間のサロン活動やチャレンジショップ、小中学生の出番づくりなどを企画し、幅広い年代が交流し活躍できる拠点として発展させる。

【選定のポイント】
地域が抱える課題を解決するため、村内外のあらゆる分野の人材が集まり、村の様々な資源を発掘、発信することにより地域の活性化が図られている。今後の更なる地域力の向上に期待が持てる。

団体名	特定非営利活動法人 あつまれむらびと (木島平村)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	下高井郡木島平村大字穂高3108-2 090-4720-0241	事業費	525,000円
		支援金額	393,000円